

第3次基本構想素案に対するパブリックコメント

【期間】平成21年7月1日～21日

【意見】104件（提出方法：はがき75件、メール25件、他4件）

番号	意見
1	<p>今年の21年の桜の花は何処も素晴らしく咲き競っていました。</p> <p>残念な事に市庁のまわりには桜の樹木がない事に気がきました。</p> <p>ほんの2, 3本それも小さな木です。</p> <p>正門を入れて2階への回廊があります。その1階部分に桜の樹が7, 8本位植樹されたら、未だ生きている内に桜の花を見る事が出来るのでは。</p> <p>桜はなんと言っても日本の国の象徴です。</p> <p>実現させて下さる事をお願いします。</p>
2	<p>駅周辺の放置自転車の撤去には大変不快感をいただいています。そこで働く老人達はタバコをふかし、空いた時間を浪費している。せめて辺りの清掃なり除草をしていれば市税が無駄にならない。市が考えねばならぬことは罰則的に有料撤去することではなく、場所を設け、無料で整列してあげる老人を老人福祉として雇用することです。撤去の自転車が最終的に誰の収入になるのかわかりませんが、撤去用人件費・費用は、外部との癒着業者とのつながりをも想定されます。</p> <p>駅の周辺にいくら自転車があっても、それは狛江市の人口のにぎわい。</p> <p>きれいに整理してあげればいいのです。</p> <p>老人達ももっとキチンとして欲しい...</p> <p>(私は歩いています。)</p>
3	<p>僕は基本構想の素案なんて、難しい事は判りませんが、過日、深大寺公園に行った時は、大分以前の事になるかと思いますが、都の方で「思い出づくり」？頑丈な椅子に立派なプレートを都民の寄付者名を刻印して制作設置にしてあるのを見て、中々良い構想だと思いました。</p> <p>狛江の場合、適当な広場を選定するのも大変かと思いますが、長期募集してある程度まとまったら善意の椅子で、くつろげたら良いかなと思いました。</p>
4	<p>最近、都内の公園や遊歩道でも見かけるようになった健康器具のこと。</p> <p>これから高齢化社会へ突き進みます。体育館やスポーツに縁のない層も日常的にストレッチができる健康器具が公園等に増えるといいなと思います。</p> <p>色、デザインは楽しげなものにして、幼児からお年寄りまで親しめるものを。</p> <p>明るい社会は健康からです。</p>
5	<p>少子高齢化・福祉健康抜粋項目</p> <p>子供・老人問わずにこれからの福祉・健康は平行線。追いつ抜かれただけでも自然・環境の変化が多くあらわれるためにみんなで協働参加自治のまち作りなのでしょう。コンクリート壁側の桜木とかツツジ等はある方が良く、電線についても地下に埋めるのを試みているとの区画も見ました。上にはキリがありませんが、現状維持策でじっくり見歩く見当も可です。</p> <p>百年に一度の不況とか、少し上下したのちいつもの上昇気流にのると良いです。乱文にてまとも失礼。いつも何かとお世話様です。</p>
6	<p>はじめまして。1歳半の息子の育児中の母です。</p> <p>今年の3月に世田谷区から引越してきました。子育てに関することで提案させていただきま</p>

	<p>す。</p> <p>中央図書館での絵本の読み聞かせで、時間をもう少し長く、広い部屋で、母親同士、コミュニケーションのとりやすいプログラムを。</p> <p>核家族でふだん1人の育児で疲れ、ストレスをためやすいので、ヨガやピラティスのとりやすいプログラムをつくってほしい(子連れOKで)です。</p> <p>リフレッシュできる場があまりないように思うので。</p> <p>有料でも参加したいママは結構いらっしゃると思います！</p> <p>よろしくお願いします。</p>
7	<p>強調したいこと</p> <p>文言だけでなく具体性をもたせたい</p> <p>内容について</p> <p>安心して暮らせる安全な町</p> <p>美しい景観</p> <p>地域の活性化</p> <p>都市農業の振興</p> <p>新しい都市型、商工業の誘致</p> <p>お願いいたします。</p>
8	<p>今年の4月に狛江に引っ越してきたものです。</p> <p>このような場に意見して良いものか迷いましたが、狛江を良くしたいという気持ちのもと意見を述べさせて頂きたいと思います。</p> <p>狛江に来てまず思ったことは路上にゴミが多く駅前あたり前のように放置自転車があふれていて きたない街 だということです。</p> <p>このような環境がなぜ放置されているのか、不思議に思うと同時にそこに住む方々のモラルまで疑ってしまいました。ゴミや自転車のことは小さなことかも知れませんが、どんな素晴らしい政策を掲げても、街の第一印象 や そこに住む人々のイメージ が悪ければ魅了ある街とは言えないと思います。狛江は川があり、緑も多く、通勤にも便利な住みやすい街です。</p> <p>今後の市議の皆様のご活躍を期待致します。</p>
9	<p>グリーンプラザという名前の野川付近が大好きで引越し、散歩も好適、しかしマンション化、デンコウ堂は明かりがつかず、寂しい場所になりました。山川の自然はそのまま、この緑地が大好き。</p> <p>年齢が増すと、セカンドハウスに温泉付別荘という夢もありましたが、車に乗れない私はあきらめ、せめて空地がうまく活用されたいなあ。</p> <p>少し足りない、生活用品を買い走るのにセブンイレブンと温泉(わかし湯)でもあれば、心癒されるし、みんなの憩いの場になるのではと思います。(駐車場もあるし)</p> <p>耕されない畑、砂が飛んでいるのに…。なんとか法令が緩やかになり、少し近くに広い畑が借りられたらと期待します。</p>
10	<p>多摩川堤防上を舗装して通勤・通学(狛江高校)又子供や足の弱い老人・椅子等の人達が歩きやすいようにすべきです。私は今年の1月から雨天を除き毎日多摩川の土手を府中、調布、狛江、世田谷区、大田区、川崎市、稲城市等を歩いています。</p> <p>なぜ狛江は舗装にしないのか、自然環境を残す為ならなぜ河川敷の焚火等を認めているのか。</p> <p>予算が無いなら3キロ弱の距離を3ヵ年計画でも可能と思いますが、確かに河川敷を放置し、</p>

	<p>荒れ放題にしておけば1円の予算も計上しないで済むが！河川敷を手入れし皆さんに喜ばれるよう広々とした多摩川にと思います。</p> <p>休日にでも自転車で乗り他の市、区を見ては如何ですか。</p>
1 1	<p>伝統を大切にすまち</p> <p>狛江市は大企業が少なく、税収が少ない中で既存の施設を上手く使い、古いものを大事にする精神を市民全体で共有することが大事だと思います。</p> <p>バリアフリーを促進すまち</p> <p>私は障害者で保健師の方に大変お世話になっていますが、高齢者の収容施設は今満杯で、公営の特別養護施設の完成が待ち望まれるところです。他の自治体並みの福祉の充実を望みます。</p>
1 2	<p>語るに少なく、行動する多く！</p> <p>基本構想とは建前＝お題目＝総論にすぎない。どんな立派な項目を並べたてようとも、否、並べる程、実質やる気のない者にとっては各論＝具体策では、体裁をつくらうことに終始しやすい。</p> <p>私の最大の関心は「水と緑の町」という自然環境にある。本当に狛江は緑の街？違う、緑を求めてる？違う。私の理解からすると、便利さや消費構造活性化のためには市の保全樹林であれ、自然などゴミめのようにしか扱われない。落葉がじゃま、鳥がうるさい、高木が高すぎて管理が追いつかない…。という理由でどんどん切ってゆく。頭をちょん切られた樹木がどれ程あるか。道路幅を広げるために桜がどんなに切られたか。</p> <p>この傍若無人の横暴に狛江市民の誰が抗議した。</p> <p>行政、あなたは…。(勇気がない市民であることを恥ずかしく思っている)</p>
1 3	<p>6の項に入りましょうか？</p> <p>一世紀近く生きて現今の文明文化変貌、ただ呆然と眺めるのみ。大昔の学区制差別なしの事由。志願しない者国賊ぞ！ 14才ですから、今の中3、小生17才、陸軍少年飛行兵、九州、久留米近く、太刀洗陸軍飛行学校操縦不可、大型爆撃後部射手、半年ちょっとでしたが、正直怖かったです。終戦で助かりました。大げさに言うと、最後の陸軍少年飛行特攻兵 7人乗りですが、特攻時3名になります。正操縦士、隊長(コンパス六分儀で3点を測り交わる機の現在地)800キロ弾塔機を機を軽くするため、また死者を少なくする意。</p> <p>81才体調、頭脳ボンコツなれど、今の内なる中2、3、高1、2。1時間半くういなる可。教養主義時代、責任、恥、道徳、忍耐、文語多く候文で父母に出す。戦後G.H.Q方針、大和魂、武士道、善悪、まとめて抹殺</p> <p>20代以下の方、近現代更省略多しで下は、希望の方もしいれば5、6、10名くらい収容できましょう。</p> <p>市の構想？失礼しました。</p>
1 4	<p>平成2年から20年が経ち、単なる「社会情勢の変化」でなく、世界的な社会転換を迎えている。</p> <p>そんな中「水と緑」を継承するのはとうてい納得しがたい。「どんな市政をどんな自治体を目指すのか？主役は「水と緑」ではないだろう。街の目指す土台は「安全と安心」コンパクトシティとして特化するならば「子供とお年寄り(災害弱者)に優しい(守る)自治の町」とか「地域福祉、いちばんを目指す自治の町」とか住民が主語の基本構想を掲げるべき。</p>
1 5	<p>ご提示されている素案は誠に結構です。</p> <p>これを具体化していくには重点的に2、3の項目を上げて市民の参加で具体策をたて、実行し</p>

	ていって頂きたいと思います
16	多摩川狛江地区の河原に総合グラウンドを設置し、市民全体の運動会 etc の開催を可能にするなど、市民の体力向上、親睦を計ること。
17	<p>清潔で美しく、皆がルールを守り、気持ちよく暮らせるモラルのある町。</p> <p>道路脇の植え込みにはコンビニに弁当の食べかす、ペットボトル、空き缶が投げ捨てられていたり、犬の糞もあちこちに。多摩川の土手もゴミでひどい状態。</p> <p>自転車の駐輪禁止場所への大量の駐輪も町の美観を損ねている。一方で、「タバコの吸殻投げ捨てはどのようなアクションの結果か、大幅に改善されてきた。」(やればできる良い例だ)</p> <p>自転車運転のマナーは最悪!! 歩道での暴走、車道での右側通行(逆走)、夜間での無灯火(巡査が近くにいっても注意も行われぬ)、ルールの無いものはルールを作り、周知徹底させ、ルールは必ず守ることにより、気持ちよく安全に生活できる町にしたい。組織的な啓蒙運動を望む。</p>
18	<p>昔は河に人間の手を加えることはしなかったようです。でも、野川の管理はそうではない様です。</p> <p>先ず、擁壁の部分に植えたツツジの手入れなんか、いらぬ手間をかけ、なお、その上刈り取った草をどう処理しているのか、知りたい...</p> <p>それに道路端に植えたツツジ等などもその手入れに無駄なことをいっぱいしている。美観の前に何をどう植えて手入れしたら良いか、考えるべきだろう。川の蛇行も勉強がたりない。これではあいつは役人だからだと馬鹿にされても仕方がないだろう。</p>
19	<p>素案4 - 、4 - 、5 - 、7 - の項目に共通することとして、便利な土地でありながら、自然の残る、美しい街、高齢者が生き生きと暮らしていける環境を具体的に示してほしいです。</p> <p>狛江産野菜はとてもおいしいので、担い手や販路の拡大として、留学生や体験農場、高齢者による手作り料理(店)の場所ができるといいと思います。</p> <p>企業や専門学校の寮とか、2世帯住宅向けの住宅優遇、他地域からの誘致と活性化。</p> <p>集客として自慢の多摩川沿いに田舎風のスパ(地産地消で高齢者が働けるような)があったり、コンパクトは市内だからこそ、シャトル(循環)バスが充実(市民半額とか)しているといいなと思います。</p>
20	<p>1、コンパクトの町狛江だからこそ日本一の町づくりをしてもらいたいです。</p> <p>3、農地、緑の多い狛江だからこそ北欧の様な景観、又、CO2削減、日本一の都市作りを目指したいです。</p> <p>5、野川に鯉のぼりを泳がしたらどうでしょうか。各家庭にある使用しない、布製の鯉を提供してもらい、狛江市の地名を有名にする。(1,000匹集める。)</p> <p>7、農業の町狛江、優秀な農家の野菜を売り込む。</p> <p>毎週朝市を開催する。</p>
21	<p>若い夫婦が住みたくなる町 子育て環境の充実 = 税収効果</p> <p>生まれてくる子ども達、若い夫婦が死ぬまで住みたくなる町</p> <p>高齢者の生きがい、不安解消</p> <p>若い人は元気に働き、高齢者は自治体のためにボランティア活動を容易にできる環境づくり</p> <p>市の支出削減につなげる</p>
22	<p>多摩川河川敷で毎週(特に土・日)バーベキューなどの食材を持ち込んで行われています。</p> <p>日中のグループは大体片付けてゴミを持ち帰りますが、特に夜来る人は散らかし放題です。早朝よりカラスの大群が小田急鉄橋に止まり、大変です。構想も良いが、至急対策することです。</p>

	<p>注意・禁止事項の看板（違法者罰則、カメラ設置等々）をしっかりと各所に掲げること。</p> <p>小田急工事終了次第、高架下にゴミ置き場、トイレ、水栓を設置。何なら有料で。</p> <p>バイク通行禁止（大きな禁止、表示板）高スピードで危険。音がうるさい。警察の取り締まり強化。</p> <p>太鼓（ドラム）叩き、音のする花火の禁止等</p> <p>狛江市として全国に先がけて新しい法令を。</p>
2 3	<p>狛江市のアピールポイント「水と緑のまち」を最大限引き出し、「ほこらしいまち」にする。</p> <p>例えば、多摩川を活かす町とし、特化する。</p> <p>日本テレビの日曜日夜7時の鉄腕ダッシュにならぬ、ヘドロの東京湾を美しい浜辺にするというように、「美しい多摩川」を目指す。</p> <p>河川敷を例えば市民に自分の管理する敷地を与え、その与えられた敷地を責任を持って、浄化してもらおう。その面積はどう区切るかは検討するとして、1坪でも2坪でも自分の愛着の持てる敷地を責任を持って浄化すれば、多摩川全体が素晴らしく生まれ変わるかもしれない。</p> <p>土・日は子供とその活動をして、年に一度、コンテストのようなことをやって盛り上げたりと。例えば、多摩川の浄化を主に考えてみましたが、ちょっとしたことで大きく変わるかもしれないと思ひ、ハガキを書かせていただきました。</p>
2 4	<p>美しい都市景観をめざした基盤づくり</p> <p>道路網や道路の整備や市内循環バス「こまバス」の運行・充実</p> <p>子育てしやすいまちづくり</p> <p>いきいきと過ごせるまちづくり</p> <p>健やかに暮らせるまちづくり</p> <p>以上の事柄を着実に実現して欲しいと願うものです。</p> <p>（地域医療や介護サービスを充実させてください。）</p>
2 5	<p>狛江市はまわりを調布市や世田谷区にはさまれ、日常の買い物も狛江市ではなく、つつい調布市内のスーパーを利用してまいります。</p> <p>狛江に住んでいながら、市に税金が入っていかないのはなんとも歯がゆいばかりです。</p> <p>狛江に住んで十数年経ちますが、なんと市民のための教養施設（図書館など）がおそまつなのか。以前、住んでいた23区内が本当にうらやましく思います。我々、団塊の世代がどんどん退職して、老後の楽しみがあまり得られないというのでは、狛江は決して精神的、文化的に満足できる街とはいえないでしょう。</p> <p>そこで提案！23区内にあるような充実した図書館を2ヶ所、造ってほしいです。教養の充実、DVD等もっと増やしてほしい。先ずは、調布市の中央図書館を参考にしてほしいと思います。</p> <p>団塊の世代を大事にしないとツケはいずれ回っていくと思います。</p> <p>会社人間、働きバチで無我夢中に働いてきたのに税金だけもっていかれ、心の充実が得られない街では、市民はでていってしまうでしょう。</p>
2 6	<p>公民館保育室を利用しています。</p> <p>私にとって、子育てをする上でとても重要な場所です。単なる託児ではなく、継続して学べる場として、現状での存続をお願いしたいです。</p> <p>また、自然の豊富な狛江の特徴を生かし、世田谷区のプレーパークのように、火が使える、危険を避けるのではなく、何が危険か体験して身につけるような外遊びの場所・機会を就園前に得られるようになればと思います。</p>

27	<p>1. 狛江を緑豊かなオシャレな街にしたい 通り、商店街、住宅地、例えば国立市</p> <p>2. 住んで楽しさを感じる街。 イベント、野外音楽会など</p>
28	<p>構想というより理想ないし願望といった感じがします。もう少し注力程度とか優先順位的な具体性を伴った表現がなければ方針とはいえず、自己満足の標語か飾り物の掛け声に終わってしまうことでしょう。</p> <p>また行政の範囲を超えたような表現もあり、実現可能性に対する認識にも疑問が残ります。</p>
29	<p>第3次基本構想の素案を読んで、今回の第3次素案は、第2次と比較して行政・学者・住民以外の市長寄りでの、住民を無視した案で、私は反対です。そこで、住民中心の理念に戻すために、次の点を改めてもらいたい。</p> <p>目標を選挙権を持った住民を基本に、子育て・高齢者が安心安全なまちづくりをする。</p> <p>具体的には、全文中の「参加と協働」を「参加と共同」に改め、自治は住民による、住民のために運営されることを明瞭にする。</p> <p>10頁の「用語説明」は削除する。</p>
30	<p>いつもありがとうございます。</p> <p>環境 - (3) について 公共バスはとても助かっています。現在の循環バスの逆コースも作ってもらえると、とても便利です。</p> <p>都市基盤 - (1) 喜多見、狛江駅前に、市が経営する一時駐輪場を。小田急のパーキングはずさんで、値段が高い。もっと広くスペースをとって作ってほしい。</p> <p>健康 - (3) HPなどを利用して、市民団体のヨガ、体操、気功などのグループ運営を紹介して下さい。</p>
31	<p>3. 自然・環境、緑があふれる町</p> <p>相続税のせいか、せっかくの畑、庭木々を伐採してしまう例が多々見うけられます。</p> <p>規制を設けるか、援助するか助政きびしい中で困難とは思いますが、緑と土は温暖化防止の上でも重要なはず。</p>
32	<p><「行財政運営」></p> <p>「トップマネジメント」「戦略本部となる自治体経営を確立…」などの表現は、自治体と経営を混同した表現ではないかと思われます。自治体はそこに住み暮らす市民の役立つ視点が必要です。むしろその視点からの意識改革の推進が必要と思います。</p> <p><「自然・環境」></p> <p>「多摩川を市民の憩いの場等として保護し活用する」点では、魚の放流や管理など行っている漁業協同組合との連携が必要と思います。</p> <p>「ゴミ減量化やりサイクル」では、家庭から出る最大のゴミ、生ゴミを堆肥にしての野菜づくりをする市民農園の優先提供し運動化することを提案します。</p>
33	<p>狛江が好きでほとんど毎日風呂通いしている私です。ある日、チラシを配っている方に狛江駅前前でいただいたので、好きな所は色々ありますが、特に自然環境を生かしての駅前一刻の息抜きの場所も指定されていてなかなかやめられない方達への思いやりとか(私は吸いませんが)ゆっくり腰を下ろしてホッとする場所がとても好き</p>

	<p>です。ありがとうございます。</p> <p>(乱筆で！バックの中にあったので。お世話になってるので。取り急ぎ一筆まで)</p>
3 4	<p>20年を考える上で、ありふれた内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブルの町(カジノ) ・小さくても国際都市 ・神の町 ・国際的水都市 <p>夢のある内容がほしい。</p>
3 5	<p>この様な町が出来るとうれしいです。もう一步、イメージがはっきりするよう、3つの基本、又は7項目毎に1つずつ、アドバルーンがあがらないでしょうか。</p> <p>EX7 都市農業と商工業の調和を図る。農地保存を中心に、とか。</p> <p>いわば、どれも非のうちどころのない立派な理念なのですが、言葉を変えれば当たり前の必要な事ばかり。その中で、狛江のカラー、方向、運営の目玉が見えると、各々の働き、立場で進めることがやりやすくなるのではないのでしょうか。</p> <p>全文を読んでいないのですが、対応する担当部署は明記されていたりするのでしょうか？</p> <p>(委員会のご苦勞に敬意を表しつつ)</p>
3 6	<p>「水と緑を活かす」ならそのあとは「環境のまち」でしょう。</p> <p>「自治のまち」というフレーズにすると、狛江市民が今、抑圧されていて、何もできないというイメージを対外的に与えてしまうのではないのでしょうか。</p> <p>また皆がバラバラで何もできていないという印象も持たれてしまうと思います。</p>
3 7	<p>20年後、少子化を見越した対策が全く述べられていない。高齢化していく中で、歯止め策が見えない。</p>
3 8	<p>企業では、長期計画は5年。</p> <p>20年は大変長い。市の形を大きく変える発想ではない。</p>
3 9	<p>「自治のまち」が入ったことを評価します。</p> <p>「平和を希求」の主語が「市民一人ひとり」となっており、行政として平和施策を積極的に展開することも明記してほしいと思います。</p> <p>「トップ・マネジメントを強化」と言っても具体的中身が解らない。それよりも「市民のために頑張る市役所」を前面に出してほしいと思います。</p> <p>「グローバル化」を言うなら、外国籍市民と共に生き合うまちにしていくことを書いてほしいと思います。</p> <p>「戦略本部となる自治体経営」は意味不明。削ったほうがよいと思います。</p> <p>産業政策に関し、雇用を守る、新しい雇用をつくり出す視点も加えていただきたいと思ます。</p>
4 0	<p>20年の計画はナンセンス。</p> <p>そんな先のことを予想して、今、これをやっておこうということが出来る。</p> <p>例えば、でたらめなことでも20年後先のためにやるんだという大義名分が出来る。</p> <p>誰が責任をとるのですか。</p>
4 1	<p>素案、読ませていただきました。</p> <p>「自治のまち」と書いてありましたが、狛江市民が目指すまちの姿という事ですので、「自治</p>

	<p>のまち」というのはいかがかなと思います。例えば、こういうのはいかがでしょうか。</p> <p>「水と緑を活かす街、こ・ま・え」</p> <p>思いつきで書いてみました。</p>
4 2	「自治のまち」のイメージがわかりません。
4 3	<p>1、平成 22 年から平成 41 年までの計画期間は長すぎます。この変動の時代に対応する為に、中間年次の見直しの検討があるにしても、もう少し短期間に変更できないのか。</p> <p>2、「水と緑を活かす自治のまち」の自治のまちのイメージが分からないし、もっと多くの市民に親しみやすく、わかりやすい言葉の是非、変更できないのか。</p> <p>3～5年に1度、各項目の進捗状況を広報等にて報告を希望します。</p>
4 4	<p>自治は警察を連想させる。(自治省)</p> <p>取締りが強くなるイメージでよくない。</p>
4 5	「自治のまち」とはどのような事なのか、漠然としている様に思います。
4 6	「自治のまち」の自治という言葉が基本構想に使われる事に疑問を感じます。
4 7	<p>(1) 自治のまちの具体的な施策、イメージがよくわかりません。</p> <p>(2) 計画 20 年というのは長すぎる。もっと具体的な行動指針を示すと同時に短縮する方向で検討する必要と考えます。</p> <p>(現代では 5 年～10 年)</p>
4 8	<p>20 年先が読めますか。</p> <p>5 年先も難しいのに、計画は 10 年の期間でよいと思う。</p> <p>水と緑を活かす自治のまちの意味がわからないし、日本語としてもおかしいと思う。</p>
4 9	<p>自治のまちの意味がわからない。</p> <p>あまりいいとは思えない。</p>
5 0	<p>・市歌にも詠われている(水と緑のわが狛江)のように、「水と緑の住宅都市」が狛江のイメージとして定着していると思うので変更する必要はないと思う。</p> <p>・「自治のまち」という言葉が意味することが分からない。本来、狛江市は一つの地方自治体であると思う。</p> <p>・計画期間は 10 年が妥当であると思う。</p> <p>以上感じたことを述べさせていただきました。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
5 1	<p>なぜ 20 年か。</p> <p>自治のまちの意味がわからない。</p>
5 2	<p>「水と緑」は狛江のシンボルなので変える必要はないが、「自治のまち」は何かとってつけたような違和感を感じる。</p> <p>他市と比べてことさら強調する具体的施策があるのか疑問である。</p> <p>それよりも住民の知的レベルが高い事を強調するのがよいのではないか。</p> <p>又基本構想の計画期間 20 年は長すぎる。</p>
5 3	「水と緑の住宅都市」が気に入っています。なぜ変更するのでしょうか
5 4	<p>・変更しなければならない理由が見当たらない。</p> <p>・自治とは「自らおさめること」という意味で自治行政・地方自治として使用されている狛江市が「自治のまち」というイメージがあるとは思わないし、「自治のまち」をアピールする</p>

	<p>のはおこがましいと思える。</p> <p>・もっと安全な住宅都市を強調すべきと思う。</p> <p>又「老人を大事にするまち」も良いと思う。</p>
5 5	<p>(自治のまち)に変更する必要性の説明が無く、理由がわからない。</p> <p>自治とは方法論であり、目標論とは違うのではないか。</p> <p>期間が20年というのは、現時代とはかけはなれすぎではないか。今は3年一昔と言われている。</p> <p>政策室企画法制担当の時代感覚を疑う。</p>
5 6	<p>水と緑の住宅都市が気に入っている。</p> <p>なぜ変更するのか。</p> <p>自治のまち、イメージがわからない。</p> <p>20年は長過ぎる。</p>
5 7	<p>第2次基本構想の骨子を詳しくは知りませんが、「水と緑の住宅都市」は狛江の特徴イメージとして合っていると思います。</p> <p>又、計画期間20年は長過ぎる。せめて10年くらいが良いのではないのでしょうか。</p>
5 8	<p>「水と緑の住宅都市」が気に入ってます。なぜ変更するのでしょうか。</p> <p>そして、「自治のまち」のイメージがわからない。</p>
5 9	<p>「水と緑のまち」、狛江というフレーズが気に入っています。</p> <p>「自治のまち」ということは、どういうことなのでしょう。</p> <p>その点がよく理解出来ません。</p>
6 0	<p>「水と緑の住宅都市」、変更する理由がない。</p> <p>「自治のまち」はイメージがわからない。</p> <p>又、変化の激しい中で計画期間20年は長過ぎる。</p> <p>10年に変更すべきと考える。</p>
6 1	<p>「水と緑の住宅都市」が気に入ってます。</p> <p>なぜ変更するのでしょうか。</p>
6 2	<p>「水と緑の住宅都市」はそれなりによいと思っています。</p> <p>今回、「自治のまち」の語が使われていますが、まったく意味不明です。</p> <p>「自治のまち」の削除を求めます。</p>
6 3	<p>「水と緑の住宅都市」を変更する理由がない。</p> <p>「自治のまち」はイメージがわからないし、自治とはどのように定義されるのか全くわからない。</p> <p>また変化の激しい中で計画期間20年は長過ぎる。</p> <p>10年に変更すべきと考える。</p>
6 4	<p>「水と緑の住宅都市」を変更する理由がない。</p> <p>「自治のまち」はイメージがわからないし、自治とはどのように定義されるか全くわからない。</p> <p>また変化の激しい中で計画期間20年は長過ぎる。</p> <p>10年に変更すべきと考える。</p>
6 5	<p>現在、市民が活動している中央公民館が形を変え、情報の提供のみで支援の場となり西河原に統合されると聞き、心配しています。狛江市の中心に位置し、市民が一番便利に活動でき、しかも窓口常に職員の方達が細かい要望にも親切にナマで接して頂けることは生涯学習の拠点、そ</p>

	<p>して大切な人間関係を深めていく意味でも、今のシステムを減らすのではなく維持して欲しいと市に希望します！！</p> <p>暖かさでイッパイの箱物をお願いします。</p>
6 6	<p>1 . 第2次構想の総括の上に立って3次構想があると思います。第2次構想の実施上の問題点は何か、構想自体に問題はなかったのか、そういったことが、3次構想にも反映して欲しいものと思います。「公共施設再編方針委員会案」は費用対効果を錦の御旗に公民館廃止や中央図書館見直しを提言しました。これが、「人間味豊かな文化を創造するまちづくり」になるのですか？賭博市長は「市民が心から誇れるまちづくり」の結果ですか？（2次構想を作成したのは市長でしたか？）（「」内、2次構想）</p> <p>2 . 構想は市行政が市民に約束するものだと受け止めています。市民が市民やまして行政に約束するものではないと思います。その立場で表現を見直していただきたいと思います。</p> <p>3 . 市民参加は良いのですが、行政責任が曖昧になっていませんか？矢野市長の公約姿勢である市民の目線で、行政のプロとして意見を聞き、市民活動を促進させ、場合によれば先頭に立つことも必要と思います。公民館の専門家要請も必要ですし、教育・文化の条例も必要ではないですか。</p> <p>4 . 以上、構想をより確かなものにするために意見を述べました。</p>
6 7	<p>1 . 基本構想の計画期間において</p> <p>平成22年度～平成41年度までとされているが、20年は長過ぎる。中間年次に見直しの検討を行うとしているが、それでも10年である。目まぐるしく変わる現代社会情勢に対応すべき今日、計画期間は半分の10年で行って欲しい。加えて、現状の20年間に対する基本構想の素案づくりにおける審議期間はあまりにも短く、基本構想に関わる市の担当者、有識者、市民等を含めた総合基本構想審議会において、傍聴した限りにおいて言えることは、審議は不十分であると思う。審議不十分で、今後20年間もの基本構想を決めるべきではないと考える。今、生まれた子どもが、二十歳になるまで続く基本構想の計画期間は、時代遅れであり、基本構想に携わった者が責任を持って見届けられる期間である様、十分審議のもとに作成されたい。</p> <p>2 . 都市基盤として</p> <p>素案では、「安心して暮らせる安全なまち」を謳っているが、将来を担う、幼児・子供達は、自ら身を守りきれない状況に置かれている。保育所、小・中学校等の未対策の耐震化を最優先にして、今日にでも来るかも知れない地震等災害対策を、待ったなしで推進すべきである。また、危険度が高い校舎・体育館等は、出入り禁止等の処置も考慮されたい。避難場所においても同様である。中国・四川の大地震の学校倒壊災害の教訓に学ぶべきである。</p> <p>3 . 教育・文化として</p> <p>素案では、「市民の学習環境づくり、生涯学習の場所の確保と活動支援の積極的な推進」を謳っているが、図書館の早期施設を現在の中央公民館の場所の確保を、市民の最適な身近な生涯学習の場所として確保したい。市民の学習環境づくりとして、欠くべからざる条件であると考え。</p>
6 8	<p>1 基本構想の検討は、策定時より3年ほど前から開始しなければ間に合わないと思います。今回の第3次基本構想のように策定作業を短期間で済まそうとすれば、拙速のそしりを免れません。</p> <p>2 本来ならば、この基本構想（素案）の構成全体を組み直した方がよいと考えますが、9月議会での審議を考えているとすると、余りにも時間に余裕がないので、「素案」を活かすよ</p>

うにして意見を申し述べます。(以下、素案の引用ページは、市のホームページ所蔵の「素案」の数字を指します。)

3 「はじめに」(1ページ)

第2次基本構想の策定時と現在では、社会情勢その他が大きく変化していると記述しています。同じことは、第3次基本構想についてもいえることですから、計画期間20年は余りにも長すぎます。

5年ごとに基本構想を策定しても良いほどに社会変化はいちじるしいのですから、少なくとも計画期間を10年とすべきです。

4 第1章のサブタイトル「水と緑を活かす自治のまち」(2ページ)は、「水と緑と市民を活かす自治のまち」とすべきと考えます。

これにともない、2ページの文に、市民を活かすとはどういうことかの解説を加えることとします。

また5ページの「図表2」の左の囲みも書きかえます。

5 「まちの姿を構成する3つの基本政策」(3ページ)としては、多様な人材が居住する狛江市では、そのことが魅力であり、誇りにすべき要素ですから、「図表1」(3ページ)の2本の柱(水と緑を...と活気と...)にもう1本の柱を加える。つまり、「人材育成と活用を誇りとする社会環境」という柱です。

従って、5ページの図表2の真ん中の段にこのことを柱として加え、「6 教育・文化」を所属させます。「6 教育・文化」は、「6 教育・スポーツ・文化・芸術」とします。

6 「2 行財政運営」の(6ページ)について

地方政府としての自負をもつからには、狛江市についての将来展望とそれに基づく政策形成への覚悟をのべるべきでしょう。

また、職員(6ページ、下から16段目)の「法務・政策能力」は、「法務・政策能力・実施能力」とします。事業実施担当職員のことも考慮すべきだからです。

7 「5 子育て、福祉・健康づくり」の(7ページ)では、子育て世帯への支援(下から11段目)の次に、「とくに保育の施策」の文言を挿入します。

0歳から5歳児数は増加の傾向が見られるので、共働き希望者の増加をふまえて、保育希望者全員を受け入れる必要があります。そのことを文章として含めるべきです。

8 「6 教育・文化」(8ページ)は、「6 教育・スポーツ・文化・芸術」とします。

この項の記述「学習環境づくりを進めます」(8ページ上から4段目)は、「学習環境づくりをソフト・ハードの両面から進めます」とします。

9 「6 教育・文化」の(8ページ上から8段目)の「そのために...」の記述は、「そのために基本的人権として確立している学習権、文化享受権など諸権利に対する、市行政、教育行政の責務を自覚し、施設、財政条件、事業提供などの基盤整備に努めるとともに、市民が自主的に活動できる場所の確保と...」に書きかえます。

10 「6 教育・文化」の(8ページ下から19段目)のタイトル「地域文化を創造するまち」は、「地域のスポーツ、文化、芸術を創造するまち」に書きかえます。

11 用語説明について(10ページ)

「市民」の定義のうち、「その他 狛江市を支えるすべての団体、企業をいいます。」(10ページ上から3段目)は、「すべての個人、団体、企業をいいます」とします。いわゆる市民参加条例についての市の「解説」=基本的な考え方の4ページではそのようになっています。

す。

また、「まちづくり」は、ハードとしての建設面と、社会、教育など人間の活動が中心となるソフト面とが混用され、市民の理解が混乱するオソレがあります。

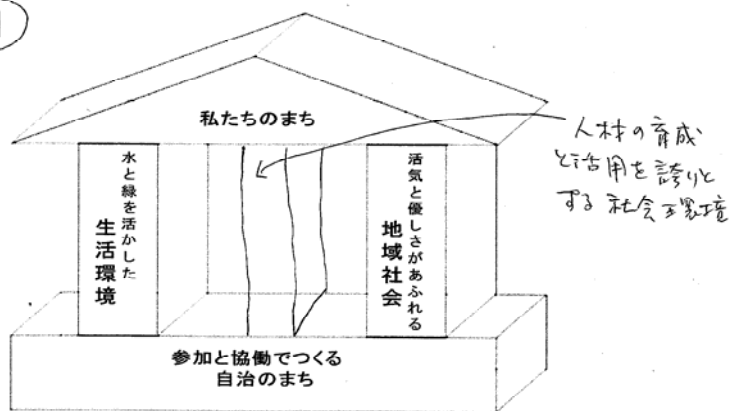
従って、「まちづくり」のコトバを用いる場合には、「ハードとしてのまちづくり、ソフトとしてのまちづくり」とか、「建設、建築面のまちづくり、人間面のまちづくり」というように前置きの表現をつけて市民の理解の混乱を避けるようにしてはいかがでしょうか。

① 本文の4と5に述べた箇所も図表1と図表2に書いてみました。

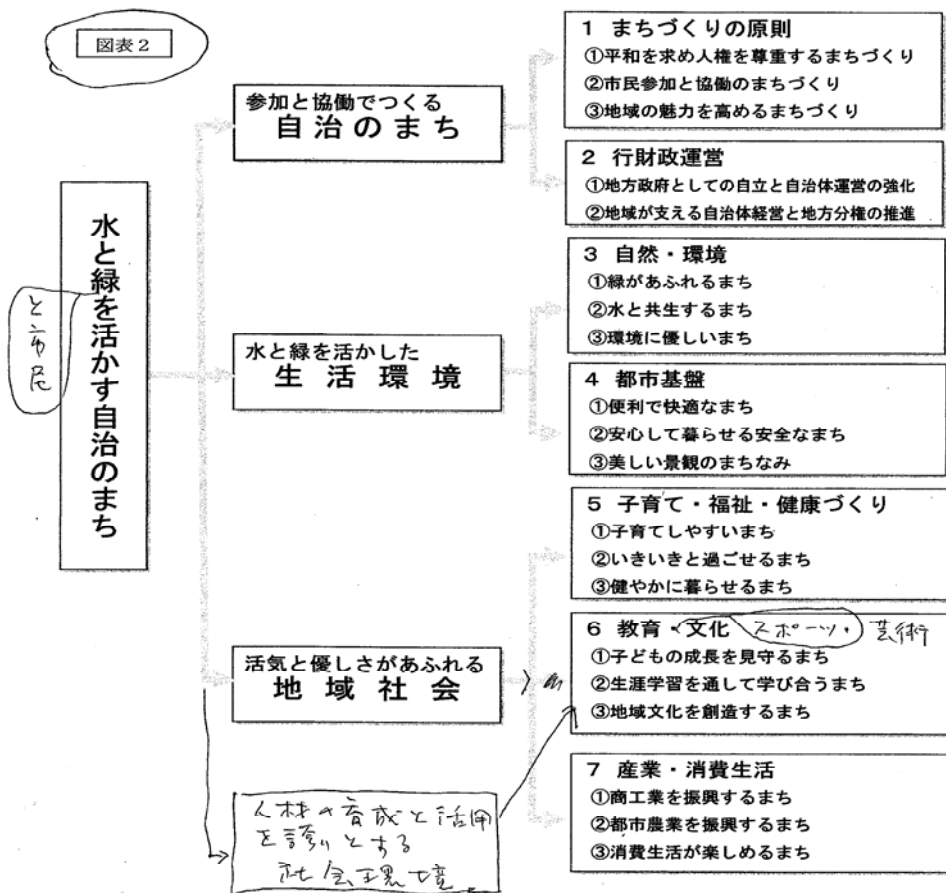
■まちの姿を構成する3つの基本政策

「水と緑を活かす自治のまち」を実現するのが、3つの基本政策です。土台となるのが「参加と協働でつくる自治のまち」です。その上にたつ「水と緑を活かした生活環境」と「活気と優しさあふれる地域社会」を実現し、豊かな私たちのまちを実現します。

図表1



図表2



<p>69</p>	<p>地域を博物館に</p> <p>狛江市第3次基本構想素案(概要)6の3地域文化を創造するまちの「歴史遺産の保全と活用をはじめ、地域文化の創造につながる環境をつくります。」に関連して私見を述べます。</p> <p>市域には、さまざまな歴史遺産があります。古くは狛江百塚と呼ばれたような古墳がなお幾つかは残存しています。亀塚古墳からは神人歌舞画像鏡や東京航空計器(株)の用地造成のとき発見された古墳時代の集落跡(和泉遺跡)ならびに出土した土師器は南関東地方の編年上の標識になっています。さかのぼって縄文・弥生遺跡も近年たくさん発掘されつつあります。</p> <p>かつて旧六郷用水には田中橋、駄倉橋、一の橋、二の橋など、また旧野川には大橋や御台橋などが架かっていました。その名称が商店街やバス停に残っているものもあります。しかし、現在はもう野川が狛江を横切っていたことも、六郷用水の存在も知らない市民が多くなったように思います。</p> <p>市内には品川道(筏道)、大山道、鎌倉道など歴史的に由緒ある道があります。その存在と言われも忘れ去られようとしています。</p> <p>私の提案はこれらの事物などに解説板とその位置のマップを作りたいということです。</p> <p>既に解説板が付いているものもあります。例えば、駄倉橋、御台橋など、また大橋には大正4年の改修記念碑が残されています。しかし一の橋の石橋供養塔はせっかくきれいに設置し直されましたが、何の説明もありません。単なる石仏と知っている人もいます。文政六年(1823)に石橋がかけられたときのもので、道標と兼ねています。それによると、東は六郷・江戸道、西は登戸・府中道、北はほりの内・高井戸道とあります。なぜその地名が刻まれているか詮索するのも興味あります。</p> <p>古墳については、亀塚、兜塚、経塚には設置者は違いますが解説・説明板があります。しかし、土屋塚にはまだありません。全容は未だ分からないにしても、かなり歴史的な意味のあるもののようなので、現時点までの解説板が欲しいところです。</p> <p>上に例示した事物だけでなく、狛江市史や狛江市文化財調査報告書等を見れば歴史的環境を構成する歴史遺産が多数あります。文書類だけでなく古老の記憶しているものもありましょう。その他にもありましょう。これらを整理して選び出した事柄に解説板を設置し、その位置を既に作成されている「こまえ散策マップ」にプロットします。こうして充実させた「こまえ散策マップ」を例えば中央公民館に備えておきます。同マップにある3コース以外にもいろいろな範疇でくった沢山のコースが出来ます。解説板、マップ、コースはさまざまに利用されましょう。成人の生涯学習に、或いは児童・生徒の郷土学習に活用が可能です。これこそ建物ではなく地域が博物館になります。</p> <p>更に付言すると、建築の分野に「割れ窓理論」の他方に「手入れ感」があります。「手入れ感」とはある場所が人々によって管理され、「手入れ」されていると感じられるものや、風土的、社会的、歴史的な文脈の重なりを感じられるものが、人々によい印象を与える景観になっているといえます。既に設置されている説明板がかすれたまま放置されているのではなく、絶えず補修され、絶えず更新されていること、そのために市民にもさまざまな協力が必要でしょう。その場所が人々とのつながりによって大切に守られていると感じられるようにすることが、豊かに感じられる地域をするためには欠かせないことでしょう。また、市史や文化財調査報告書等も市民一般のもの、身近なものになり、その活用は地域文化のひとつの在り方につながっていくだろうと思います。</p>
<p>70</p>	<p>狛江市第3次基本構想素案について2、3意見を述べさせていただきます。</p>

	<p>なお、太字は「狛江市第3次基本構想（素案）」の原文を表記したものです。</p> <p>第1章 まえがき</p> <p>「21世紀に入り、少子高齢化とともに本格的な人口減少時代が到来しようとしています。これは狛江市も例外ではありません……」</p> <p>少子高齢化は、年金問題を顕在化させるために作られた用語です。</p> <p>少子化による人口減少は、年金問題など労働人口を問題にするときには必要な数値ですが、地球温暖化防止の観点からは、少子化は望ましいことです。また、高齢化は社会の仕組みにかかわる問題です。</p> <p>基本構想の前書きには適切ではないと思います。</p> <p>21世紀の最大の課題は地球温暖化防止です。このことは周知の事実であり、サミットの重要課題にもなっています。小さな狛江市には拘わりのないことのようにですが、スローガンの「水と緑を活かす自治のまち」そのものが、結果的に温暖化防止に役立ちます。</p> <p>冒頭の表現には、環境に優しいまち作りが、地球温暖化防止に、また高齢者に優しいまちとなることを取りあげるべきと考えます。</p> <p>第2章</p> <p>水と緑を活かした生活環境</p> <p>「…また、市民や事業者、行政が連携して環境問題に対する意識を高め、地域で実践できる地球温暖化防止への取組を進め、環境に優しいまちをつくります。…」</p> <p>環境問題に対する意識を高め、環境に優しいまちをつくること、このことが結果的に地球温暖化防止に直接役に立つのだと思います。</p> <p>活気と優しさがあふれる地域社会</p> <p>地産知消は、単に地域産業の振興だけでなく、輸送に伴うエネルギー消費（フードマイレージ）を削減し、地球温暖化防止に役立ちます。</p> <p>クローズされた地域の消費経済に、地産地消を位置づけることにより、結果的に地域経済の活性化と、地球温暖化防止に役立つことを主張すべきと考えます。</p> <p>第3章</p> <p>3 自然・環境</p> <p>環境に優しいまち</p> <p>「…ごみの減量化やリサイクルなどの地域での実践を進めます。さらに、太陽光発電や風力発電などの環境エネルギーを活用する事で、地球温暖化防止への取組みを進め、自転車や公共バスの利便性を高めることで、環境に優しいまちをつくります。</p> <p>「…ごみの減量化、リサイクルなど地域での実践や太陽光発電などの自然エネルギーの活用、さらに自転車、公共バスの利便性を高めることで、環境に優しいまちをつくります。</p> <p>6 教育・文化</p> <p>子供の成長を見守るまち</p> <p>地球温暖化に関連して、環境を守ることの大切さを知ってもらうことを課題として付け加えるとよいと思います。</p> <p>7 産業・消費活動</p> <p>地産地消が地球温暖化防止に役立つことを、強調するとよいと思います。</p>
7 1	<p>基本構想素案を拝見しました。もっともな内容ではありますが、総括的で、別に狛江でなくてもどの自治体にもあてはめられるものだと思います。狛江市は何をアピールしていきたいか＝</p>

	<p>どこに重点的に予算を使いたいかが見えません。</p> <p>狛江の財産は川と畑と交通の便と人ではありませんか。</p> <p>このうち流動的で結果がわかるものは「人」なのですから、「暮らしやすさ」を前面に掲げて施策効果を測れるようにしたらどうでしょうか。全国と比較した人口構成変化とアンケート併用で測れると思います。</p> <p>高齢者の暮らし易さも、若い世代が活躍してこそだと思います。彼らが住みたくするような画期的な政策を、小さい行政だからこそ実現できるのではありませんか。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き屋を魅力的な若者向き住宅として再生し、斡旋する。(住みつく) ・再生業者として有望な若い世代グループを育成する。(仕事を作る) ・三十路限定イベントを開催して、未婚者の交流のきっかけをつくる。(出会い) ・多摩川サイクリングロードの休憩地として、むいから民家園を活用する。(川の駅) ・個人宅を開放してもらい、読み聞かせボランティアを派遣し、本の家を点在させる。(子育て) ・上記ボランティアは予算をつけて市が育成し、認定証を発行するまでにする。(世代交流) <p>高齢者宅や病院にも派遣可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNIDYなどの協力をもらって市民学校をつくり、簡単な修理や判断の仕方、機器の使い方を学ぶ(生活支援)。ここも認定証を発行し、派遣するまでやれば生きがい支援にもなる。 <p>「新しい風」のように効果がうやむやな施策は、小額でも無駄使いになってしまいます。</p> <p>継続的に効果が測れて、市民に評価を問える施策に重点的に税金を投入してください。</p>
72	<p>意見等</p> <p>子育て環境について、子供の医療費補助の充実を23区並みにして欲しい。中学生まで、医療費負担がないようにすることが、子育て世帯にとって、相対的により魅力的な狛江市になる大切な取り組みだと思います。子育てを一つのテーマに掲げるならば、その部分の充実を徹底して検討・実現していただきたいと思います。</p> <p>美しい景観の街並み、という部分については、もっと河川敷の整備を進めて欲しい。多摩川という素晴らしい資産がありながら、その良さを生かしきれていないと思います。駅から上流の方は、桜並木が美しいのですが、多摩川沿いは全く整備されておらず、残念ながら楽しんで・安心して歩く環境にはほど遠い状況だと思います。是非、多摩川の良さを生かした、家族がもっと楽しめる空間の創出を検討いただき、実現して欲しいと思います。一つひとつの縦割りの整備ではなく、総合的な一貫した思想の基に、美しい景観を計画・実現していただくことを期待します。</p> <p>地域的資産の質の高さとしては、二子玉川に引けを取らないと思いますが、街の魅力としてそこまではないのは、狛江の独自色が見えないことにあると思います。住んだ市民としては、とても住みやすく好きな街なのですが、世田谷区であったら良かったのに、と正直思うことがあるのは、狛江独自の特徴が良くわからないからだと思います。</p> <p>環境と子育てという軸を据えるならば、託児所を23区以上に徹底して充実するとか、多摩川沿いの徹底した整備とか、道路清掃の徹底やポイ捨てに対するペナルティとか(ポイ捨ての吸い殻は多いと思います)、そういった一貫した環境整備やインセンティブの与え方をしていくことが</p>

	<p>大切だと思います。</p> <p>もっと魅力的な街づくりをよろしく願います。</p>
7 3	<p>昨今のめまぐるしい社会の変化に対応するには、20 年間で計画期間とすることにそもそも無理があると考えます。今、狛江に必要なのは行政改革です。対応すべき課題は山積しています。これらに的確に対応するには20年では遅すぎます。少なくとも10年とすべきです。その上で基本計画の対象期間を細分化し、達成目標を明確にして課題の積み残し、やり残しをなくすべきです。そうでなければ、スピーディな改革は断行できないと考えます。</p> <p>「水と緑を活かす」とは何を意味するのでしょうか？在り来たりの「水と緑」ではなく、もっとイメージがつかみやすいものはないでしょうか？「自治のまち」とのつながりも意味がわかりません。「基本構想」イコール「めざすべき将来都市像」といっても過言ではありません。それが市民の頭の中にしっかりと残り、分かりやすくなければ全く意味がありません。抜本的な改訂を求めます。</p>
7 4	<p>1. 「水と緑の住宅都市」は今でも遜色がないと思いますし、気に入ってます。</p> <p>2. 「自治のまち」のイメージが湧きませんし、わかりません。</p> <p>また、自治は当然のことで今までしてこなかったのかと問われる可能性があります。</p> <p>3. 計画期間が平成22年度から41年度までとありますが、20年は長すぎるのでは。せめて10年にしてほしい。</p>
7 5	<p>1：定量計画の盛り込み</p> <p>会社組織に勤めている立場からすると施策の基本的な方向性を示す際に定量的指標が入っていないことは理解に苦しみます。</p> <p>2の行財政運営は勿論のこと、4の都市基盤、5の子育て・福祉・健康づくり、6教育・文化、7産業・消費生活においても定量的目標は掲げられるべきです。</p> <p>2：想定期間</p> <p>不可視性が高まる現代社会において20年先を見通すことは非常に困難になっています。特に1項の定量性を確り盛り込むためにも検証出来る期間にしないと画餅となる可能性があり、折角の基本構想が無為になります。基本的には10年単位であろうと考えますが、仮に20年でビジョンを示すならば、それを補完する10年、5年のロードマップがあるべきです。</p> <p>3：コンセプト</p> <p>環境意識の高まる現在の社会状況において、20年前に既に水と緑を活かすと謳ったことは慧眼であり、高く評価されるべきと考えます。</p> <p>一方で、そのコンセプトから3つの基本政策に分岐することがもったいないと感じます。即ち、参加と協働でつくる自治も、活気と優しさがあふれる地域社会にも「水と緑を活かす」=自然との共生が貫かれてしかるべきです。</p> <p>狛江の強みは東京都という大都市にあって緑と水が豊かにある、ということである訳ですから、人と企業を呼び込み持続的に運営されるためには、その魅力を反映した4の都市基盤、5の子育て・福祉・健康づくり、6教育・文化、7産業・消費生活の項目がある方が、コンセプトが徹底した構想になり、説得力が増します。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> * 都市基盤 ・緑化の更なる徹底 ・河川管理のエコシステム化などの追加

	<p>*子育て・福祉・健康づくり、教育・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課外授業における自然教室強化 ・ 市民活動におけるエコ関連事業の支援 ・ エコ関連活動における他自治体との連携 <p>*産業・消費生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコ関連企業（研究所、工場等）の誘致 ・ 狛江地産農作物の対外的 PR 支援 ・ エコ活動による消費者支援（市民エコポイント導入など） <p>といったことが案として考えられます。</p> <p>特に個人的には現在は市の収入面での強化は最重要課題と感じており、エコ関連企業（研究所、工場等）の誘致は焦眉と考えます。</p> <p>これはエコ関連商品開発に力入れる食品メーカーや電機メーカー、昨今増加する農業参入企業を対象に、狛江市に研究所や工場といった施設を設置してもらうよう働きかけるものです。</p> <p>こういった企業は CSR の精神も比較的高いので、税制などのファンダメンタルな条件に加え、パブリックアクティビティや市民参加、産学連携など自然との共生取り組みを理解してもらえば、ビジョンを共有して進出してもらえる可能性があると考えます。</p> <p>これらコンセプトから戦略へ発展させる際には、狛江市のおかれる外部環境、自身の強み弱みの内部環境の分析がかかせません。上記アイデアは下記のような未来予測や外部環境分析を基に行っていますのでご参考迄。</p> <p>http://seikatsusoken.jp/futuretimeline/</p> <p>最後にこの市の益々の発展と清祥を祈願し、一市民として貢献したいと強く思う次第です。</p>
76	<p>「水と緑を活かす」について；</p> <p>昭和 50 年にこの言葉を掲げて以来、住民はケヤキ等の大木が寸胴切りで縮められ枝を切り払われ、更には根っこを掘り返されてる情景を手を拱いて眺めてきました。一本の樹を守ることをさへ不可能であるならば、基本構想の冒頭を空しい言葉で飾ることによって構想全体をも空しい嘘、ただの作文であると告白するようなこの枕言葉は好ましくないと思います。</p> <p>この言葉そのものに異議を唱える人はいないでしょう。従って、3つの基本政策のひとつが「水と緑を活かした・・・」とあるので、そこで実現可能な基本計画が検討されることを期待します。</p> <p>ところで、活かさなければならぬもの、それは人材ではないでしょうか。お金も土地も大企業も大学もない狛江市の持つ財産はこれです。保護の対象であるだけの小・中学生や高齢者も含めて、市民の知恵と力を十分に活かし切ることで未来を拓こうというメッセージを盛り込むことは如何でしょうか。</p> <p>「水と緑を活かす」ではなくて、「すべての人を活かす」です。</p>
77	<p>【3. 自然・環境 水と共生するまち】について</p> <p>多摩川は、貴重な自然の資源です。この多摩川環境を守りつつ、市民にとっても自然と共生できる場所として、活用する施策を検討いただきたい。</p> <p>(1) 環境保護としては、ゴミの問題が最優先としてあげられます。</p> <p>多摩川の河川敷では、バーベキューの後にゴミの山ができます。</p> <p>それをゴミ収集車が回収をしています、おそらく市の負担で回収をしているのだと思います。川は国の管理だからということで、市としては手を出せないという話を聞きましたが、大問題であるので、地元自治体として手を打っていただきたい。</p>

	<p>例えば、 河川敷の駐車場を管理しているポート屋さんにごみの持ち帰り管理をしていただく。</p> <p>バーベキューの利用者から一人 100 円程度のゴミ処理費用を徴収する。等々の対策を打っていただきたい。</p> <p>(2) 河川の市民への活用として、花火大会を復活してほしい。 19 日のいかだレースにも多くの市民が参加、見物に出ていましたが、前夜の 18 日の夜の方が更に多くの市民の入出がありました。物それは、調布市花火大会の見のために市民が土手いっぱいに出ていたのです。この状況をみてもお分かりいただけますが、花火大会は、多くの市民が望んでいるイベントなのです。 財政上の都合で難しいとのことですが、市民からカンパを募るとか、有料席を設けるとかの対応策はいろいろ考えられますので、ぜひご検討いただきたい。 花火大会は、昔から狛江のシンボルでした。</p> <p>(3) 土手の舗装化の実施 下流の世田谷区と上流の調布市エリアの土手は舗装されているのに、狛江市部分のみ砂利道歩行者、ジョギング、サイクリング、そして最近は、車いすの散歩が多くなっていますが、砂利道で、歩行、走行がとても不便である。雨が降ると、ぬかるみ、水溜りができ更に不便。 自然保護のために舗装をしないとのことではあるが、何を保護しているか不明です。利用者が多く多くの方が不便と感じていることがなぜ、受け入れられないのでしょうか。ご検討いただきたい。 以上、よろしく願い申し上げます。</p>
78	<p>折り込みチラシを拝見しました。なにやら漠としていて、いまひとつよくわからないのですが、せつかく意見を公募しているので、率直な感想をと思い、意見することとしました。</p> <p>なによりもまず、前面に「自治」が押し出されている点に、違和感を感じます。狛江市が小さいながら頑張っているのはわかりますが、警察は調布警察管区、週末の買い物は調布市のイトーヨーカ堂、娘の幼稚園は調布市にあり、世田谷区の幼稚園に通っているお友達もいます。市民生活は、隣接する調布市、世田谷区と深く結びついています。そんな中で「自治」と声高に唱えたところで、狛江市にはそれだけの財力と人材力があるのでしょうか。</p> <p>結婚して狛江に引っ越してきて、9 年になりますが、狛江の底力は、一般市民の熱い想いが結実して形になる点にあると思います。夏祭りばかり、コマレンジャーばかり。誰かリーダーが引っ張るのではなく、何人かの想いが、物事を動かす。まるで何本かの流れが川になるように、何枚かの葉が風になびいて木が大きく揺れるように。</p> <p>この力は、「自治」ではなく「共生」の感覚の方が近いと思います。お互いに、狛江をより楽しくするために、より好きになれるために、力を合わせていく。</p> <p>9 年にわたる狛江生活で感じる狛江のイメージは、水と緑を「大切に」「いつくしむ」といったもので、「活かす＝活用する、利用する」というものとは違います。水と、緑と、鳥と、虫と、全ての命を大切にできる、それが狛江のやさしさ、小回りがきくよさ、そして 23 区に隣接する場所にありながら独自性を発揮できる点だと思います。</p> <p>「自治」という言葉は、まるで市が「自分たちで決めろ」と突っぱねているように感じられます。それより、「みんなで狛江をよくしていこう」「みんなで力をあわせていこう」と思えるよう</p>

	<p>な市の姿を提案してはいかがでしょうか。たとえば、「水と緑とともに生きるまち」「水と緑をまもるまち」などの方が、狛江らしいおだやかな言葉で、狛江に住んでいる柔軟で物静かだけれど、芯は熱い市民たちにふさわしいと思います。</p> <p>折り込みチラシ裏面の項目に関しては、どれももっともでありながら、全く「狛江らしい」点を感じられないのが残念です。無難な表現ばかり並べていませんか。</p> <p>都市基盤ひとつとっても、便利で安全で美しい、そんなことはどこの町でも目指している、あたりまえなことだと思います。それだけでいいのでしょうか。狛江の歴史を考慮すれば、元水路だったところ、古墳、石碑など、活かすべき街角の景色はたくさんあります。効率化と利便性ととも、古き良き物も大切にできてこそ、狛江のやさしさが浮かび上がると思います。</p> <p>子育て・福祉・健康づくりにおいては、市民が7万人しかいないからこそできる細やかな配慮を、教育・文化においては、狛江らしい、自然も人も大切にできる人材の育成を、盛り込めないものでしょうか。</p> <p>そもそも、このような基本構想が20年間をひと単位としていることが驚きです。20年前は、携帯電話もインターネットも普及していない時代でした。デジタル放送もETCもありませんでした。今から20年後が、どのような社会になっているか、誰も具体的に想像できずに口当たりのいい言葉ばかり並べて基本構想としているような感じがします。</p> <p>たとえば、期間を10年間として、もっともっと具体的に、狛江らしい、狛江ならではの街作り構想を打ち出していいと思います。</p> <p>狛江が好きだから、少々辛口な意見を述べました。ご検討いただければ幸いです。</p>
79	<p>子どもたちの教育について、市として自立した構想を持ってください。</p> <p>日の丸・君が代の強制とそれに関する処分に見られるように、都教委の方針は必ずしも教育的とはいえない特異なものが目立ちます。教科書の選択についても各学校の希望が分りにくいようなやり方を求めています。</p> <p>このような教育的ではない都教委の方針に惑わされることなく、本当に子どもたちにとってよい教育とはどういうものなのか、市として自立した構想を持って、その実現のための方策を追求してください。</p>
80	<p>1. 意見</p> <p>広報紙に入ってきたリーフレットを見て驚いた。早速、全文を読まして頂きました。</p> <p>「自治のまち」というキャッチフレーズに大きな違和感を持った。このようなものに「自治」という言葉を使うことにイデオロギー的な匂いがして拒否感を抱いたのは私だけだろうか。“まちづくりの原則”の最初に“平和を求め、人権を尊重する・・・”というフレーズが出てくる。このことに異を唱えるのではなく、原則に地方自治体らしくない余計なフレーズが入っていると感ずる。ご承知のように中央政府、広域地方政府、地方政府という3段階の政府からなるわが国ではそれぞれに役割がある。この段階をわきまえずに逸脱してしまうと、基本構想も身近なものから遊離してしまう。もっと身近な表現のみに留めるべきと考える。従って、「自治のまち」というフレーズは基本構想から全て削除すること。</p> <p>「基本構想の計画期間を20年にする」と言うことに大きなショックを受けた。作成に携わった人は時代錯誤も甚だしい。20年というと市長選が5回もある期間ですよ。素案の中で“時代の変化が激しい”とか“地方分権”などの言葉が飛び交っているが、このことを何も理解していないのではないのか。このような時に20年先を計画することが出来るのか。無駄な作業であり、コスト意識に欠けた行政の恥部を曝け出している。民間企業ではバブル崩壊の頃から中期計画の</p>

	<p>期間を5年から3年に縮めたり廃止している。変化の激しい時は如何に素早い対応で負を最小限にするかを肝に銘じている。税金で飯を食っている人は無駄をしないことを肝に銘じてもらいたい。</p> <p>☒表2)以下のセグメントの切り口も見直す必要がある。当たり前のことを羅列しただけで方向性がまったく見えない。2本柱を明確にするなら☒表1)も「私たちのまち」ではなく「地域の魅力を高めるまちづくり」にでもしたら如何でしょうか。</p> <p>2. 提案</p> <p>基本構想の素案として取り組むには、現下の厳しい狛江市に将来に明るさの見える基本構想であって欲しい。何とかしようとするアイデアに欠ける。5頁以下に項目が並べてあるが、これを誰がどのように進めていくのか。現状の委員会形式で市民の声を聞いた、市民が参加した、と言う形をとるなら現状からの脱却は無理だろう。“タテ割りの組織を超えた総合化を図っていく必要がある”と認識するなら「小さなまち狛江市」を「こまえ構造改革特区」として取り組むことを提案する。行政は二言目には“省庁の壁とか法律で”と言い訳しているが、「地域再生」と組み合わせることで規制改革や地域の再生・活性化を進めることが可能になると思う。この中で掲げられた課題も国からの予算でクリアになると思われる。行政のヤル気だけだ。市民に優れた人が沢山います。これを掘り起こすのも行政の仕事です。</p>
8 1	<p>1. 全体的に抽象的な表現が目立つ。なるべく具体的に、市民にわかりやすく。</p> <p>2. 「水と緑を活かす自治のまち」の表題がわかりにくい。わかりやすく。</p> <p>3. 期間20年とは、いまだき国の政策目標でさえ設定しない、長すぎる期間。少なくとも10年の期間設定とすべき。</p>
8 2	<p>(1)基本構想の計画期間は20年とあるが、めまぐるしく変化する社会情勢を考えると、計画期間は10年としたほうがよいと思います。</p> <p>(2)「水と緑を活かす自治のまち」とは何をいいたいのか意味が不明確で、インパクトに欠けるのでわかりやすいものに改訂するべきだと思います。</p>
8 3	<p>従来の水とみどりの住宅都市に、自治のまちを追加したことは高く評価いたします。</p> <p>以下3点について補強・充実を望みます。</p> <p>3-3「環境にやさしいまち」、4-1,3「便利で快適なまち」「美しい景観のまちなみ」への補強意見</p> <p>地球温暖化防止、少子高齢化の進展等から自動車優先のまちづくり(道路・交通対策)の見直しの機運が高まっています。自転車・バスに加え、歩行者が安心して、快適に歩けるみちづくりを積極的に打ち出していただきたい;歩道設置の推進、自転車との分離の試行、コミュニティ道路の設置、沿道緑化等)</p> <p>5-1 「子育てしやすいまち」への補強意見</p> <p>昨今の経済情勢を反映して、待機児が急増しています。子育て世代誰もが、できるだけ質の高い保育サービスが受けられるよう場の確保を切に望みます。</p> <p>6-2 「生涯学習を通して学び合うまち」への補強意見</p> <p>狛江市では現在、市民参加、市民協働を推進(まちづくり条例、市民参加・市民協働条例等)して、自治のまちを先取りしており、市民は汗をかくと同時に知恵を出すことが求められています。市民活動を支援する条件整備は行政の責務であると考えます。そこで、講座や学習会等事業の提供、市民の知る権利にこたえる資料提供も盛り込んでいただきたい。</p>
8 4	<p>案を読ませていただきました。</p>

	<p>率直な感想としては、期待していただけに総花的で独自性があまり見られず残念です。単なる理念(理想)としてとらえれば異をとるものではありません。しかし現実的に狛江市の将来像として実現させる政策的位置付けと考えると多岐に問題があると思います。</p> <p>というのは3から7の政策のほとんどが、何々を「つくる」あるいは「します」で結語されています。このような基本構想を指針として各分野ごとに基本計画を策定した場合、「取りやめる」とか「縮小させる」といった選択肢はとりにくく、財政的裏付のないまま計画が進められ、その結果、将来、市の財政を圧迫しかねないことが危惧されるからです。</p> <p>狛江市は人口、面積ともに全国でも最小レベルの行政市です。限られた資源(人、物、金)を有効に配分しなければなりません。その観点から今後20年の市を取り巻く社会・経済・自然環境の変化への対応を考えると夕張市とは言わないまでも放っておけば財政面で相当厳しくなることを予測することは難しくありません。</p> <p>従って、自治のまちを標榜するのなら、市の財政面の現状と今後の予測をについて、市民(住民)に対して忌憚なく情報を公開し、よく理解を得ることが先決だと思います。そのうえで、身の丈にあった、たとえば市民(住民)の最低限の安心と安全を守る観点から福祉・教育とインフラ整備に特化した独自性のある政策を打ち出したらどうかと考えます。そして他の分野については協働がいいかどうかは別としてしてお金のかからない方法で解決していくことが必要と考えます。</p> <p>いずれにしましても、本基本構想の素案がたった半年、計7回の審議会で策定されたということですが、今後、狛江市の20年間の政策の元になる重要な構想ですからもっと時間をかけて基本から再検討されたいかかと思う次第です。</p>
85	<p>短期的な活動のみならず、将来をめざす構想づくりに取り組まれていらっしゃる関係者の皆様の日頃のご活動に心より敬服いたします。</p> <p>これまでの経緯を拝見いたしましたが1975年に基本構想が初めて立ち上げられ、90年に第二次基本構想に引き継がれているとのことでした。2009年の今改めてみなおそうという試み自体は非常に良いことと存じ上げますが、現在のめまぐるしい社会変化に対応するには、むしろ1975年-90年の見直し以上にタイムスパンを短くし、7-10年程度の設定で、構想を練る方が、ステークホルダーにとって参加もし易く、また議論も充実するのではと感じます。まず一点目、基本構想が念頭におかれている時間の長さにつき、企画財政部/政策室にて、なぜ20年とされているのか、その選択の狙いや根底にあるお考えをお聞かせいただけますと幸いです。</p> <p>もう一点、広報のチラシを拝見したところ、新しい基本構想(狛江市第三次基本構想素案)では、「水と緑を活かす自治のまち」と記載がございました。そして3つの柱と7つの項目にさらにブレークダウンしてお見えですが、例えば「水と緑を活かす」を、3>自然・環境、4>都市基盤、5>子育て・健康6>教育・文化と、関係づけ、より具体的な標語に構成頂くなど、工夫の必要を感じます。</p> <p>と申しますのも、「水と緑を活かす自治のまち」といった言葉が、あまりにもぼやけた印象を与えてしまう気がして、これではせっかくの政策室の方々の熱意が、市民に十分に伝わらないとの感を持つからです。</p> <p>「水と緑を活かす自治のまち」というキーワードで、お伝えされようとされたメッセージの意味を再検討頂けますと幸いです。(1975年当初の「水と緑の住宅都市」は、そのアピールしようとしているものが言葉をお聞きして想像できるのですが、第三次案になって、抽象的になってしまったと感じま</p>

	<p>す。)</p> <p>今後一層、市民をまきこんだ議論として、将来構想を発展ならびに実施に移されることを、一住民として強く希望致します。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
86	<p>ア．策定の手順についての意見・提案</p> <p>審議会等の諮問組織の構成委員の数は、多くても10人以内とするべき。</p> <p>10人を超えると議論に参加しない人が発生しやすい。</p> <p>人数が増えると欠席しても影響が小さく、欠席しやすい。</p> <p>わが国ないし世界の泰斗を集めて、それだけで構成するべき。</p> <p>今の市民委員の参加の形は、中途半端である。市民委員といっても市民の代表としての資格があるわけでもない。市民の資格ある代表は、市議会議員である。唯一最大の住民参加を経て、およそ住民の半数から意思決定を付託されている。</p> <p>今の住民参加とは、大多数の不参加のことである。限られた人数のうえ、何らかの利害関係人“族市民”の参加に偏ることを避けられない。</p> <p>全く逆の考え方も出来る。住民だけで委員会を構成し、事務局も住民で担当する。基本構想については、策定作業の専門家はいるが、学識者はいない。</p> <p>部分的な学識者はいるので、執行機関の市長、特別職、市職員などを参考人として適宜、招いて意見を求めるというやり方もある。</p> <p>広くご意見をなどと、いちいちパブコメなどをやる必要はない。</p> <p>やったところで、反応は住民の1%にもならないであろう。大多数の住民は、市政に対する関心は薄い。住民だって、自分の教養を高める、健康を増進する、あるいは生計維持のためなど夫々忙しいのだ。何か自分に関心のあること 自分に利害が及ぶことがある場合以外は、ほとんど関心はない。住民との対話くらいは必要だが(それも限られた市民とでしかないが)、市長や市議は、御用聞きではないはず。それぞれの叡智と直感力で、決定し執行してほしい。そのための市長であり議員だと思っただが。</p> <p>蛇足だが、現行の市民参加、協働の条例は、見事な欠陥条例で、市執行機関の仕事量増大と責任逃れ、言い訳に役立っている。</p> <p>イ．基本構想素案についての意見・提案</p> <p>一読して総花的かつ市民迎合的である。</p> <p>狛江 ROMANCE としてならば出来は良い。</p> <p>時代の変化を感じていない。高度成長期の感覚のままの内容とスタイルを踏襲しているようだ。表紙を取り替えると、首都圏の河川のある自治体のどこにでも使える。汎用性があるところは、工夫が感じられる。</p> <p>蛇足だが、狛江市民憲章と同じである。</p> <p>ある部分、ある語句がおかしいというのではない。中身全体の重点、理屈には疑問を感じる。</p> <p>自治法に定める、基本構想が何故、三段階に分かれるのか、分ける理由が明確でない地方。</p> <p>確かに、形式は各地域で決めればよいのだが、基本構想を第1, 2, 3章と分ければよいではないか。</p> <p>基本構想と基本計画、つまり第一、第二段階は少なくとも議会に付議するべき。</p> <p>基本構想は理念、ないし総論のこのようである。総論だけ議会の議決を経るのは、通</p>

り易そうな部分だけ議会に付議して、あれもこれもと異論、注文の出そうな部分は付議せず、執行機関の裁量を広く確保したいとの意図ありと勘ぐることも可能である。これは議会軽視である。基本計画、実施計画まで付議すると、議会の負担になるから、というご親切な思いやりならば、本末転倒で、議会は馬鹿にされたと怒るべきであろう。この点は議会が敏感に反応するべきだが、如何に？

議会が面倒なことはゴメン、票にならない、あるいは難しくて手に負えないと、腰が引けているなら何をか云わんや。

議会の議決を経ることは、地域政府の機関決定である。条例と同等に首長が変わっても改定の議決がなければ、効力を持つ。議決を経なければ執行機関の内部規定であり、首長の判断と責任で決めたもの。

執行機関が、事務を処理するに当たって、実際の問題としては基本計画にも即して行うのであり、当然、狛江市でいう基本構想なるものと基本計画なるものとは、一体で、地方自治法の求める基本構想のことである。

基本計画も、首長の都合でこころ変わるものではなかろう。変えるときは議会の付議すればよいので、変える理由も開示され、自動的に改定過程の透明化が担保される。基本構想は、執行機関の事務処理に当たっての、判断の基準と裁量の範囲を明確に示すものでなければならない。現代では、書き方としては極めて実務的な、ROMANCEよりは条例に近いものが必要となっている

際限なく増大する行政需要について、利害相反する行政課題を処理する際に、この基本構想素案をもとに迷うことなく判断できるか、疑問である

解釈しだいで如何様にも対応できるように書いてある。取捨選択、優先劣後を示さねば、基本構想を作る意味がない。自由裁量の余地が大きいほど執行機関側は都合が良いかもしれないが、総合的かつ計画的な事務処理の役に立たない。

明確な判断基準は「基本計画」で提案するというのなら、それこそ議会の議決を経るべきものである。

自治のまちとは、滑稽であるが、勇敢である。納税者の視点から全面的に、書き直されるべきである。

今、最も「自治のまち」らしいのは、行って見て来ると良いが、夕張市である。自治の相当部分を制限されて初めて住民も自治体も自治たるは何ぞや、に気付きつつある。やっと自治に目覚めたのである。

住民負担を言わない自治は、タカリという犯罪に近い。自治のない住民負担は絶対王政・北朝鮮みたいなものである。

自治の主役は、納税者である、いわゆる市民ではない。にもかかわらず主役であるはずの納税者は、基本構想素案には登場しない。

身銭を切って自治を支えているのは納税者である。この視点が全く欠落している。自治の要諦は、自助、自律、自尊である。この要諦を弁えた住民一人ひとりが、集まって地域を構成し、地域政府を作る。地域政府もまた自助、自律、自尊を旨として、国家社会の一構成員として他の地域政府の中で伍して行く、これが自治であろう。自治は、苦しいことで、決して楽ではない。

自治を標榜するならば、現状の5割自治を9割か10割自治を総合的に計画的に実現する政策を打ち出すことが先決である。

国や都からの交付金、補助金をなしでもやってくには如何にするのか？ 現状は国や都から金が約半分入っている。現状は、いわば乞食自治体である。自助、自律、自尊に反する。皆、もらっているから良いではないかというかもしれないが、それでは自治ではない。乞食根性というべきである。タダ金は麻薬に等しい。

もらい続けると麻痺して、当たり前になる。楽だが、代わりに失うものも大きいと知るべき。夕張の住民は気が付いたであろうが、狛江市民は気付いていない。

当分、もらい乞食を続けてもやむをえないが、あと10年後、20年後には貰う方から、上げる方に回るべき。いつまでも無償援助やODAを貰い続けている途上国と同様ではないか？我が国には、交付金を貰わないでやっている市町村は決してゼロではない。

素案の「まちづくりの原則」は、削除すべき

既に機関決定している、「市民憲章」と「平和都市宣言」があるので、言わずもがな。自治体執行機関の事務処理の基準に「平和」がいきなりでてくるのは、特にそぐわない。行政需要に対して、どこまでを税金を使って賄うのか、何故税金でやる必要があるのか、その境界の原則を可能な限り明確に提示すべき。

際限なく増大し、分裂する行政への需要を制御する原則がない。情性と融通無碍では、今後は立ち行かない。

各分科会では、必ず、それぞれの対象分野の政策に、何故、税金使い、地域政府の人手をかける必要があるのかを議論してもらいたい。

住民に自分のことは自分でやる、家族でやる。なるべく税金の世話にならない、行政の職員に手間をかけない。地域政府は、住民一人がどう頑張っても一人では手に終えないこと、都市基盤の整備、災害や緊急時態、経済社会の激変による影響の緩和措置などには、税金を使い確実に住民の生命、平穏な生活を守る、と明確に表現すべきである。そのための蓄えも用意するというべきである。

東洋経済新報社の全国市「住みよさランキング」では、狛江市は、多年、都内26市で不動の最下位という栄誉ある地位を得ている。

このランキングは上位の市では、住民に知らせているが、狛江市では無視している。これは狛江市を鏡に映した自画像の一つで、客観的な評価だとは価値がある。稲城市や町田市は、以外にも健闘している。

つまり、完全ではないが、一つの客観的な評価で「住みよさ」という順位を出せば、狛江市は都内26市でダントツのビリ、住みにくさトップが現実の姿である。この結果は、都市計画がなかったり、総合的な都市形成を怠ってきたかの表れといえる。現実を直視して書き直してもらいたいものだ。

地域政府がやるべき義務性、緊急性の高い事務を幾つか参考例に挙げれば、以下

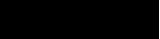


- ・下水道の分流化と排水容量アップ。これを向こう10年で100%行うには幾らかかるか？是非、算出して開示してもらいたい。分科会でも検討されたい。

近年、多発する集中豪雨は、地震や多摩川の氾濫より頻度が高い。狛江地域は水が豊かと浮かれてはいないか。市内の大半は合流式下水道である。50ミリ以上の雨で、マンホールを押し上げて、道路に汚物混じりの雨水が噴出する恐れが十分にある。

- ・市内交通網の再編、車歩自転車の分離は必要がある。思い切って将来の域内交通の中心を自転車としてはどうか？

市域は小さい、高低差も小さい。高齢者が増える。排気ガスを出さない。など利点は

	<p>多い。既に狛江市は交通安全都市宣言を機関決定して、交通事故の絶滅を期すことになっている。一向に絶滅を目指して</p> <p>全力を傾注しているとは思えない。この際、思い出してはどうか？</p> <p>現状、歩行者は、電柱の影に身を寄せて、自転車の方は、下車して車をやり過ごすという光景をしばしば目にする。道路はほとんど狭小である。</p> <p>自動車の通過交通と地区内通行の分離のため、CUL DE SACの導入も検討してほしい。元和泉地区などで社会実験してみても？</p> <p>道路の拡幅、歩道敷設の100%化、自転車道の新設にどれくらいの税金投入が必要か？ 大胆な前提を置いてもいいので試算して健闘してほしい。</p> <p>現状を見れば、住みよさ最下位、狭隘な道路で明日にも自転車と衝突、あの世へ行きかねない、お互いの注意力で事故から幸運にも逃れている域以内交通、明日にも下水溢れるかもしれないまちという基盤のうえに、われわれは生活している。そんな現実の中で、生涯学習だの健康維持増進、文化の創造だのは、自助努力で取り組むべきではなからうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治の関係で言えば、地方財政法を改正して、課税自主権を完全に地域政府のものとするべき。 <p>今まで、一定額の税収を所与の条件として、それを如何に使うかという考え方であった。しかし、これは逆で、本来、自治体は、何をやるべきかを決めて、その必要額を課税する、住民に負担してもらうという考え方に立ち帰るべき時だと思うが、如何か？</p>
87	<p>まず、めざすまちの姿「水と緑を活かす自治のまち」というのは、「水と緑を活かす」と「自治のまち」が木に竹を接ぐとでもいうような異質なものを無理やりくっつけたという印象がぬぐえません。具体的にはどのような姿をイメージしているのか見えて来ません。戦国の堺のまちが、掘割で自らを守ったというようなこともないでしょう。</p> <p>「自治」にしても、今の条例は三鷹市の条例などと比べ、天と地ほどの差があると思いますが、どのように「自治のまち」をイメージしているのでしょうか。自治とはとりもなおさず「民度向上の果実」だと思います。民度を上げるために何をするか。それなくして、自治を謳っても画餅でしょう。</p> <p>キャッチーなコピーにしようとして、無理やりに2つの要素をつなぎ合わせても意味がないと思います。</p> <p>それに「活気と優しさあふれる地域社会」が市民自治の上に立つ、もう一つの車輪であったようですが、どこに表わされているのですか？自治に含まれているのでしょうか？</p> <p>そうであるならば、素案のイメージ図とは異なって来ると考えます。</p> <p>次に、4月5日のフォーラムに係る意見交換でも出されたようですが、計画期間が20年という論拠はどのようなものですか？</p> <p>変化の激しい時代に20年は長過ぎる。行政運営目標に「変化に柔軟に対応できるまち」と謳っていながら、計画は20年見直さないというのは、如何なものか。一定の見通しと継続性と言うと聞こえは良いが、その間に、不作為で何も変わらない場合に、20年後に見直すというような事は許されない。せめて10年にすべきだと考えます。</p> <p>構想の20年という期間についてですが、20年を長期目標、10年を中期目標、5年を短期目標というように区分して</p> <p>ゆくというのも一つの考え方だと思います。もっとストリクトにするのであれば、漠然とした目標を立てるだけでなく、</p>

	<p>中間でチェックを入れるべきでしょう。3~5年ごとぐらいに到達点がどの位置にあるかをチェックするくらいで本気度が図れるのではないのでしょうか。</p> <p>水と緑の住宅都市こまえ。水は多摩川や野川に代表されると思いますが、緑はどうでしょうか。市民にそれを守っていくという意識がどこまで広くあるのか。宮沢賢治の短編に、『虔十公園林』というのがあります。緑を謳う以上、お題目だけでなく、実践を伴うような方向に市民を動かして行きたいものです。</p>
88	<p>狛江市役所 企画財政部 政策室 企画法制ご担当へ 2008年12月17日(水)</p> <p>総合基本計画審議会市民委員への応募の件</p> <p>kihout01@city.komae.lg.jp</p> <p>03-3430-1111。内2451。</p> <p>応募者：   </p> <p>応募の動機</p> <p>一人暮らし老人の実体験困事を、多視点から本質に向け階層抽象化し、次ぎの提案に達した。策定に参考とされたい。</p> <p>§基本構造と要件及び提案</p> <p>1 主権在市民。市民の、市民による、市民のための、生活共生市政。 要求する市民から、考え協議解決できる自立自律市民へ。 要件： 論理理性により協議提案できる思考能力の市民自己啓発。 市民の会：集り Community 相互 Communication：活性化源泉 地域情報センター：よろず相談所。Pub、hub、cab。SpeakersCorner。 公民の育成：社会教育：市民プロを自負する市民の育成。 エコルマ案内係複数が、市民ホールを市民センタ内と誤案内。 市民に社会教育。公私混同のない公共奉仕。</p> <p>2 市長：選良： 要件： 小市に適する直接民主制への傾斜。市政討論集会。 市民ブレイン・シンクタンクの活用。 対等の現場主義：職員適性啓発；担当への実務直接指示、指導。 基本市制の制度創出：[例]：SandySprings</p> <p>職員教育：最低限能力： 日本語理解、市庁舎案内、自身担務責務の理解。 市民以上に、市役所業務、システムに精通。できない理由は不要。解決提案力育成。 最低スキル：パソコン・インターネット：職員負担。</p> <p>3 市政</p> <p>3.1 市政基本原理原則モットー</p> <p>市政：まち創り：革新前進。[例]：狛江新憲章、震災復興計画</p> <p>「優しさ と 誠意のまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の擁護、個人の尊厳の尊重：憲章に「優しさ」「誠意、安全安心」 ・ 知識から 知恵、叡智へ。

・civilMinimum；最低限の向上；日本語が通じない[例]：“市民”。道などの「教え方、伝え方」を知らない[例]：分室案内。市役所内専任担務者案内。[例]：「後期高齢者医療保険料額決定通知書兼変更通知書」要分ち書き、同提案「早わかり」「12、2月期分については、市役所で現金を払うか、振込みしないと、延滞金がかかります」送付。

・方法：市民参加 Communication & Community

原動力は、市民相互の協議相互理解にある、との自覚。

他地域市民は、口をそろえて、狛江市民自身が相互理解を形成することだ、という。市民の会の必要性。

3.2 公開透明な市政運営管理

市政デジタルシステム：不具合要改善、市民セルフサービス化促進。

運営アシスタントのボランティア化

3.3 困りごと：職員は、市民以上に、市役所業務、システムに精通していること。

職員教育：最低限能力：業務「因果関係」の理解力：質問を理解せず、無関係説明をしたから、回答した、などと言張る。

日本語の理解

関連分課分掌の理解、他専任担当者案内

パソコン・インターネット操作法修得：最低スキル職員負担。

4 基本インフラシステム構築

4.1 完備ネットシステムの構築（透明公開アクセス可能電磁媒体情報ネット）。ソフト情報の公共化。

行政組織：分課分掌担務権限責務表。

完備化：一意一貫性統一、無脱落、無矛盾。

手続：最簡潔な流れ図。

運営マニュアル：最簡単操作サービス・ルーティンの実現。無駄手順手続の排除。市ホームページ内検索の不良。1時間も掛った。

4.2 市民間職員間インターフェースの即応化。原状：無反応マイク型職員。

データベース入力：対話、電話同時納得要件記録

処理規則スキームの構築。高効率化：FAQ、help。

案件番号、扱い日時、担当者、市民。

市民問合項目、分類別整理記録：苦情即対応、質問、意見、陳情、請願。

[例]：職員回答：職員A：調査、担当者Bに照会。職員B：質問了解：調査：何日に回答する。[例]：案件については、問題点を分析、担当部課と協議、解決案を回答予定。

4.3 安全安心震災対策。

市内：高額化提案にも応じない既契約済みリフォーム業者

役所：安全施工は、対応外（検査のみ）とする安全安心課

5 登用。志気倫理規律向上職員人事。有用提案成果報奨：incentiveBonus

有關有能高齢者等の経験知恵叡智の活用。

6 市議会議員

市民意見の収集公開義務。解決策提示義務。成果報酬制

7 災害復旧計画：近隣地域協議。

・教育分野

(1) 社会教育

- ・社会人向けに教育研究所の活用を提案。
- ・(むいから村) 市民大学に市民発表会実現
- ・文科省告示「引きこもり人([例] 老人、森田療法・精神障害者) 参加機会」実施を歴代公民館館長に提案、拒絶。
- ・市民の会：相互理解啓発。学教同源、教学同体。
対話活動：実生活基本問題を共携。
市民憲章に「誠実」原則の加入を！。
- ・市スタッフ教育：「市民のための」市政立案能力の開発に、市民ブレインの導入を！。

(2) 市繁栄へ向けて。抜本問題：

- ・「情」には、音楽、絵を挙げて活発であるが、「知」性の開発には、ほとんど未着手。
- ・発明発見、資格取得の奨励。創「無から有へ」、人材客観性の付与。
論理的思考および問題解決に、数学的思考が有用(小学「 $-1 * -1 = 1$ 」なぜ。思考力開発へ)。

・安全安心：生命財産を守る地域の課題

- ・安全[安心]分科会の創設を！。理由：基本課題でありながら、緊急突発広域課題検討が未消化。対応は未解決で山積(震災、新型ウイルス)。
- ・優先課題：現在の安全・安心 > 将来の市づくり(現在に寄与する策に限定せよ)。

切実な(寝たきり老人など普遍的一般の)、安全・安心を実現する具体的方策。

- ・地域特有：(財)電力中央研究所：原子力技術研究所：放射性物質の管理監理問題：実験施設。
・市政：震災ハザードマップ(放射性物質、化石燃料)。近隣市、区、国・都との密な連携へ(周辺からは、市民同士の話し合いへ催告あり)。跡地、管理地の活用。消防署、消防団。
・民間：リフォーム会社、工務店の看板は、見せかけで、普段でも、実体がない。災害時に、臨機応変、全倒半壊を修理してくれる業者は、とてもおらず、市は、市全体の回復復旧に、これらを頼りとする事は、できない。
・外側補強など速効現実的工事に、補助を(耐震試験補助は意味がない)。
安全あれば、安心に。

・「基本」構想

税金・選挙権には、地域の「しぼり」があっても(最大公約数事項；「基本」社会原理)「たけし」受賞、平和賞、金賞、また NPO、NGO は、世界に開かれた(最小公倍数事項「総合」の社会原理)であって、いずれも、知情意・真善美(素数事項；「要素」の社会公理)の具体的社会現象(困り事、悩み事、苦痛)から、論理的に誘導される。*「社会数理学」嚆矢、江原創哲著作権。

	<p>思想信条を異にしながらも、区域に限定拘束（税金・選挙権）されて生じる、「市民の、市民による、市民のための」したがって、存在する「自主自立・自律自決」の原理の論理的帰結は、言われるのとは、異なり「市民（top、up）市（bottom、down）（市民から市）」に尽きる。市内人を排斥、資格欠格の市外人が支配・誘導・決定する結論は、侵害であり、無効である。</p> <p>成案は、口頭（PublicDebate；RoundTable）、筆記（PublicComment）の数層 Sandwich による市民意見の収束結果でなければならない。動機は、前回応募の通り。</p> <p>すべて解決の策：テクノクラート。</p> <p>コンタクトセンターでの、氏名を除き全て透明で公開する、事案の問合応答・手続処理経過閲覧、分類意見要望陳情請願、FAQ。ボランティア市民ブレイン主導の活動：市民の会の実現。</p>
89	<p>“水と緑を活かす自治のまち”で水と緑と自治がつながっていないように思われます。さらに基本構想といった誰にでも理解されなければならないものに対して、“自治”といった言葉が適切かどうか疑問に感じます。“自治のまち狛江”がこれからの狛江の姿とは思えません。“自治”をはずして再考願います。</p>
90	<p>「水と緑を活かす」という部分について、自然環境を護るだけでは「活かす」ことにはなりません。どう活かすのか、基本構想案でも見えてきません。現状は多摩川にもバーベキューの問題他、多くの問題を抱えており、必ずしも自然保護につながってはならず、市内の緑も生産緑地などはどんどん減少傾向にあり、今後も減少することは考えられても、増えることは考えにくいのが現状です。審議会で生産緑地の買い取りの話もあったようですが、金額を考慮すれば現実的でないことは誰でも理解できるはずで。住環境も狭い地域に乱立した住宅が数多くみられ、西野川地区は震災時には大きな被害が想定され、住みやすいまち、子育てがしやすいまちだとは言いがたい現状がございます。野川にいたっては湯水したかと思えば、台風時には氾濫寸前まで増水するなど、とても環境保護に成功しているとはいえません。</p> <p>「自治のまち」につきましては、結局のところ市の歳入不足などから予算でできることが限られていることから、市民の要求に全て応えることはできないため、市民との協働で市が行うべきことをやっていくということだと思いますが、突きつめていくと市役所の役割を最小限にし、住民サービスの質の低下を市民に押し付ける言い訳にされるようでは困ります。協働自体の考え方に問題があるのではなく、市の歳入を増やすような努力もあわせて必要となってくるのではないのでしょうか？市が抱える多くの問題が、市の予算が十分にあれば解決する類のものであったりします。産業政策の無策により、狛江市から企業がなくなるようでは、住みたいと思う人も減ってしまいます。</p> <p>これらの基本計画が、数回の審議会ですら十分な議論を経ずに決定され、20年間も変更がないことも問題です。10年の見直しは結局法制化しないとできないでしょう。10年くらいの基本計画にしておくことが賢明だと思います。</p>
91	<p>基本構想の大きな柱が「自治のまち」が掲げられ大変大事なことだと思います。このテーマを支えるために、また1のまちづくりの原則の1~3の柱を支えるために、市民の自立を支える教育・学習環境が大変重要ではないかと思えます。6の教育・文化の項目特に2に関して市民の学習の機会を整備支援することをしっかり打ち出してください。20年にも渡る構想なので今後市民の学習環境が狭められていくことにつながらないよう唱っていただきたいと思えます。</p>
92	<p>計画期間について</p>

	<p>素案にある計画期間20年はあまりにも長すぎると感じます。</p> <p>現在の社会情勢、環境の中では、どう長くても10年が精一杯ではないでしょうか。</p> <p>めざすべき将来都市像水と緑を活かす自治のまち とありますが</p> <p>どのように水と緑を活かすのでしょうか。</p> <p>自治のまちとはどのような意味でしょうか。考えれば考えるほど分からなくなってしまうので、もう少し簡潔で分かりやすいフレーズに変えていただきたいです。</p> <p>よろしく願いいたします</p>
9 3	<p>1 第三次基本構想の計画期間が平成22年度から41年度までの20年間として設定されているが、計画期間に関する議論をもっとしっかりと行う必要があるのではないかと。この20年間の社会的な変化は恐らく過去の延長線上で計れるリニアなものではなく、かつ日常生活のうえでも情報技術の進展がもたらす世代ギャップが急激に起こることが予想される。つまり見直しの基準が従来の「期間」ではなく、「状況」であるということも考慮すべきことである。言い換えれば、各委員が基本構想を考えるうえで、その不連続性をどう捉えるのか、といったことや今後の社会変化をどのように考えていくのかといった議論が非常に重要である。マクロ的にも今後20年間の日本、世界の社会変化に対して、特に社会保障分野（年金、医療、福祉、教育など）の視点から狛江市民、まちの姿をイメージしておかないと基本計画で行き詰まってしまう。そのためには、基本構想の段階でいくつかの選択肢を提示することが本来の市民主導に移行するためには不可欠だと思う。このあたりを明確にしておかないと仏作って魂入らずという結果になる。基本構想が絵に描いた餅にならないことを今後の審議に期待する。</p> <p>2. アンケートの市民意識調査によれば、一般的に市民は狛江市が住みやすいし、これからも住みたいまちとして、受け入れているようだ。ただし、一方には地域の商業活動がこれからも活発になりそうもないという不満がある。今後の商工業振興計画もあまり積極策がなく、狛江市としてもっと真剣に考える必要がある。もっと税収を増やすことを根本的に考えることが狛江市のまちづくりには必要である。そのためには水と緑を活かす自治だけでなく、地域産業、消費構造を抜本的に考えることや子育て、障害者などの分野で特徴を持った狛江市にして、若い世代の狛江市民を増やすことを真剣に考えない限りこの20年を乗り越えられないと思う。</p> <p>3. 基本計画で内容が検討されることとは思うが、市民参加と協働の自治を具体的に推進していくためには、地域人材の活用とその継続する仕組みづくりを作ることが必要で、市長部局で関係する所管部署を統合するプロジェクト（機能組織）を立ち上げ、事業実施、評価という試行錯誤を繰り返しながら改善していくことが重要であることを基本構想でしっかりと議論しておくことが大切だ。社会教育の答申にも述べたことだが、地域の活性化が狛江市の将来像をつくり、それを実現するには人材の活用がすべてである。市民参加と協働事業を継続させるためには3世代の交流による長期的な世代交代を基本構想に盛り込むことを提案する。恐らく20年後には私を含めて多くの貴重な人材がこの世にいないだろうという現実を見据えながら、次世代に負の遺産を残してはいけないということを肝に銘じることだ。</p>
9 4	<p>1、「地方分権と権限委譲・自己決定件の拡大」の意味するものは、「自治体独自でより市民のニーズにあった市政運営を可能にする」だけでなく、自治体の運営や行政の主体がその地域に暮らす市民であるということです。したがって、これまでの「参加と協働」を「より強化」するだけでなく、主体は市民・住民であると宣言をするべき。</p> <p>冒頭にて宣言をおくべき。</p>

	<p>「地方分権一括法による権限委譲は自治体政策の自己決定権の拡大であると同時に地域に暮らす住民の自己決定権を認めたものです。」</p> <p>「すなわち、自治体の運営主体は地域住民であり、行政は地域住民の総意をもって基本構想を策定して市政運営に当たります。</p> <p>この基本構想をそういうものとして定めます。」</p> <p>地域住民の定義が必要</p> <p>その上での「参加と協働の強化」を言うならよい。</p> <p>2、P2 「水と緑を活かす」とは、のところ。下線部加える。</p> <p>「多摩川・野川などの水系や地下水・雨水などの水循環、武蔵野の面影をとどめる樹林地・屋敷林などの自然環境、 <u>国分寺崖線下からの武蔵野台地、立川段丘とその下の多摩川氾濫源といった狛江の地形の特徴も含めた自然を大切に守ることです。</u></p> <p>さらにそれらを暮らしに活かしながら・・・つまり、<u>自然に接する地域の環境整備には工夫をし、</u></p> <p>3、P2「自治のまち」とは、のところ。下線部加える。点線部はちょっと変更。</p> <p>「自治のまち」とは、<u>冒頭の宣言にあるように、まちの運営主体は地域住民ですが、まちづくりの主体は、市民と行政、その他狛江市を支えるすべての団体、企業です。そして、それぞれが、お互いに助け合い、学びあい、協働していくことで、将来にわたり持続可能で、小さなまちならではの活気に満ちた街づくりを進めていくことを表現しています。</u></p> <p>市民の定義が必要</p> <p>4、P3「参加と協働」「情報の共有」「地域の人々が積極的にまちづくりに参加し、地域の課題に取り組む地域社会の重要性が見直されています。そして、戦争を支えてしまった時代の反省を忘れず、<u>差別のない平和な地域社会をめざします。</u></p> <p>1、P6</p> <p>戦争中は隣組組織が法律一本で戦争を支える住民監視・管理の組織となってしまいました。町会といった組織は常にその危険性ははらんでいます。</p> <p>「信頼の絆や郷土意識が育つ豊かなコミュニティを目指す」という部分は必要でしょうか。この文章のために総体として意味が不明になってしまいます。</p> <p>この文章を入れることで、さまざまな施策が作られていくのですから、この部分は精査議論をしなければなりませんので、割愛すべきです。この文章がなくても目指すものは十分に伝わります。危険なものは入れるべきではありません。ファシズム容認の余地は残すべきではありません。郷土意識や信頼の絆をここでいう意味を説明してください。質問です。後世の子どもたちに説明責任を果たせる委員はいますか？</p> <p>郷土とは何ですか？土地を耕してきた住民が何人いますか？その人たちは土地を何がんでも守るといっていますか？地域の自然を積極的に守る法律が国会で作られましたか？</p> <p>理念・概念をいい加減に入れないことです。</p> <p>2、下線部加えるまる 1、地方政府としての自律を高めるために自治体運営の基本ルールを定め、議会のチェック機能と提言機能強化で、<u>トップマネジメントを強化し、住民主体の仕組みを作ります</u></p> <p><u>3、湧水ありません。地下水豊富ではありません。文章精査を求めます。</u></p>
95	1. 第2次基本構想の評価・総括と課題の抽出をして、第3次構想に反映すべきだ。

第3次構想の素案を見ても、「はじめに」のところに、僅かに「(第2次基本構想)策定当時と現在と比較すると、社会情勢も大きく変化してきており、またいわゆる地方分権一括法の施行をはじめとした地方分権の流れの中で、地方自治体そのもののあり方も20年前とは、大きく変化しています」とあるだけで、これまでの構想についての達成状況や評価や総括は、何も無い。総括や課題の整理もないままに、いきなり第3次の基本構想に入ってしまうのは、おかしくないか。

たとえ、数値目標がないとしても、一定の評価をして、今後の課題を整理して、公表するくらいのは、最低でも早急にすべきであろう。さもないと、今度の基本構想も、同じように、何の総括や課題の整理もないまま、次の第4次基本構想に進んでしまうことになりかねない。又、財政運営についても、財政規律や、身の丈に合った財政運営とすべきだったとの指摘も出てくるだろう。そういった指摘や課題への対応や配慮は、第3次構想に、当然、反映されなければならない。現在の素案には、その部分が、欠落している。要は、PDCA(計画・実行・評価検証・改革修正)が、何もされていないことになる。PDCAをきちんとこなすことが必要である。そのためには、第2次基本構想にある第4編「基本構想実現のための施策の大綱」にリストされている

- 第1 美しいまちなみの都市をめざした基盤づくり
- 第2 安全で健康な都市をめざした生活環境づくり
- 第3 ふれあいのある都市をめざした福祉・文化の地域づくり
- 第4 活気あふれる都市をめざした産業の振興

以上の4つの項目別に、平成2年から平成21年まで20年間の主な事業や成果・実績を経年的に、整理し、その上で、総括評価と課題抽出することは欠かせない作業である。このような作業をすることから、自ずと、第3次基本構想に盛り込むべき項目が導かれてくることになる。一体、これまでに、どのような成果が、各項目別に、得られたのだろうか。

さもないと、前述したような、これまでのような内容の薄い、美辞麗句の構想ができるだけで、多大の経費と工数をかけても、空虚な作業を、又、繰り返すことになるだけであろう。

行政としても、これまでの基本構想にどんな課題があり、その原因は何だったかについて、整理して委員会や市民に提示すべきではなかったか。或いは、今度の基本構想策定委員会で、かなりの時間と工数をかけて、課題の抽出と整理をすべきであったが、どうもこれまでの基本構想についての総括が地道になされた形跡がないのは、残念である。その作業が、第5次基本計画の策定に、大いに役立つことになったはずである。新たな構想や計画を作る前に、これまでの基本構想や基本計画の総括評価・課題抽出をする方が、はるかに、建設的な作業といえる。

2. 20年の基本構想の計画期間は10年に短縮すべきである。

20年の計画期間では、前述のように、目まぐるしく変化する社会の情勢に対して、対応できず、構想が陳腐化し、役に立たないものになる可能性が高い。少なくとも、10年間に短縮して、目標と成果検証を明確できるようにすべきである。一応、「中間年次に見直しの検討」となっているが、見直しするくらいなら、当初から、10年間と設定して、メリハリをつけた方がいい。前構想の課題を整理すれば、20年の計画期間では、長すぎるという見解を出されることになるだろう。

以下、その理由を列記する。

多摩26市でも、狛江市も含め、僅かに3市だけが、20年計画としていている現状を参考にすべきである。<10年計画(16市)・12年計画(2市)・15年計画4市・

20年計画(3市)・不詳(1市) = 15年以下が85% >

今後、道州制や分権化、市町村統廃合など、地方制度や税制など、大きく変わる可能性が高い。又、地球温暖化・経済のグローバル化・少子高齢化など社会構造も地球規模での大きな変動も予測される中で、20年先を想定することは、現実的ではない。

計画策定時と成果を総括する間が、長すぎて、計画の内容が、絵に描いた餅になりかねず、計画策定の責任がみんな曖昧になってしまう。

計画期間を20年のように長期にすると、夏休みの宿題と同じように、前半の期間は、殆ど計画実行の成果がなく、無為の時間が流れてしまうことは、よくある。狛江市のこれまでの長期計画でも、その傾向は、指摘できる。大きなマイナスポイントである。

これまでの「水と緑の住宅都市」というお題目に対して、矢野市長自身が「市長と語る会」で、違和感をもったまま、市政運営をしてきたというような所感を述べられた。20年が長すぎたのであり、市長にはそんな自覚があるなら、市の舵取りを無駄にしてほしくはなかった。本来、市長が変われば、基本構想が修正されてもいい、むしろ疑問があったら、計画期間内であっても軌道修正すべきではなかったか。

20年の計画期間の財政の見通しは、先ず至難と言わざるを得ない。財政の裏付けのない構想は、所詮、画餅になってしまう。10年計画でも、見通しは、難しいが、前提の選択の幅は、はるかに現実性が増す。(この件は、後述する)

なお、市長は、「市民と語る会」で、20年計画にしたのは、道路計画など長期にわたる計画もあること、他の計画の中にも、20年計画があり、上位計画としての基本計画は、20年計画とせざるを得ないというような説明をしていたが、あまり根拠がある説明ともいえない。市長の説明では、現に、前述のように、大多数の市は、10年計画としていることを説明しきれない。

最後には、最高責任者である市長として、20年計画とするという権力志向の強弁をしていた。そうであれば、このような、市民の意向を聞く機会など設ける必要はないことになる。市長が計画を提示して議会の承認を得れば、それで済むことになってしまう。20年計画については、議会でも疑問視する意向が強いのではないか。

3. 基本構想・基本計画の実行性を担保するために、少なくとも、今後10年間の行財政計画を市長は、作成して提示すべきである。

第2次基本構想の目次には、20年間の行財政計画に関する記述が全くない。つまり、財政の見通しはなく、いろいろな事業についての経費の概略や財源の手当といった事業実行のための財政計画も、全くない奇妙な計画で、典型的な「絵に描いた餅」のような基本構想であった。

現に、狛江市は、財政に余裕はなく、又、危機に直面したことは、市民の記憶に残っている。財政危機だけではないが、基本計画だけでなく、「まちづくり総合プラン」や、「都市マスタープラン」「みどりの基本計画」などが、計画はあっても、ほとんど、計画通りの進展はなく、先送りされる例があまりにも多すぎた。

20年計画とするなら、その間の財政のあるべき姿を、市長として提示すべきである。単にこれまでの趨勢を単純に延長するだけでは、何の意味もない。市長や行政として、描く市の将来像を実現するための財源のあり方や財源の確保について、市民に提示する必要があるだろう。さもなければ、全く無責任な夢物語になってしまう。20年間の財政計画は難しいとしたら、財政計画が示せる期間を、基本構想・基本計画の期間とすべきである。その意味からも、20年計画は、大多数の市が、採用している10年計画とすべきである。

新しい基本構想素案をみても、「2. 行財政運営」という項目はあるが、そこでは、

	<p>地方政府としての自立と自治体運営の強化 地域が支える自治体経営と地方分権の推進</p> <p>となっているが、具体的なイメージや内容がわからない意味不明のタイトルが、使われている。肝心の財政については、一言もない。</p> <p>少なくとも、「財政運営の健全化による財源の確保」位の項目は、明確に設定すべきであろう。国政でも、財源の確保のための具体的政策の明示は、国民の関心事項であり、同じことが、自治体運営でも求められるのは、当然だろう。最近提出された「公共施設の再編方針策定委員会の報告書でも、財源の確保の重要性が、明確に指摘されていることを、銘記すべきである。</p> <p>４． 近隣市との合併の是非は、検討項目に加えるべきである。</p> <p>少子高齢化の進んでいる狛江市の将来像からは、特に、歳入面から今後財政の改善を見通すことはむずかしい。財政均衡を目指しても、よほど、大胆なまちづくり施策を実施しない限り、縮小化になる可能性が高く。近隣自治体との市民サービスの格差が、顕在化してくる。それでも、自立を志向するのか、少なくとも、両者の比較を、市民中心に検討することは必要である。20年間でなく、10年間という計画期間としても、狛江市が自立していくのか、近隣市との合併を選択するのかの検討は、欠かせない課題である。</p> <p>矢野市長は、合併には反対のようだが、公約にしているわけではなく、市民自治を強調しているわけだから、市民による検討の場を設けることについて、反対することはできないだろう。自立を維持できるというのであれば、市長は、財政の裏づけを市民に示して、納得の行く説明責任を果たすべきだろう。</p>
96	「自治」の言葉の意味が分かりづらい。
97	「自治」の言葉の意味が分かりづらい
98	自治と言う言葉を取り消して下さい。
99	自治のまちの自治が、どうしても引っかかります。 できれば削除して下さい。
100	よくわかりません。 活かす自治のまち??
101	自治がわかりづらいです。 昔のままだが良いです。
102	「水と緑の住宅都市」を変更する理由がない。 「自治のまち」はイメージがわからないし、自治とはどのように定義されるのか、全くわからない。 また、変化の激しい中で、計画期間20年は長過ぎる。10年に変更すべきと考える。
103	5年前に、世田谷区から、狛江都営団地に引っ越してきました。元々緑と川が好きで、ハイキングを時々しておりましたが、今は、団地がゆったりと立ち、木々や公園が近くにあり、野川のほとりを散策するなど、楽しんでます。バスで狛江駅や調布に便よく、ヘルパーの仕事も勤めやすく有りがたい事です。産業の発展がもっと多くなれば、若い人も勤めやすくなり、良いと思う。私は一人暮らしなので、老後の事が心配です。団地内に、デイサービスや、24時間見守りのシステムがあれば良いと思う。又、老人ホーム(市営)があればと思う。
104	1. 子育てについて すでに児童館を指定管理者制度で大きく委託していますが、中身(子供の発達を真に目的と

して)を検討していますか?例えば全く個々の発達を一番大切にすべき、0才、1才児をクラス編成にしてノウハウで釣って人集めに躍起になり、目的を問うても「人集め」を公言しています。本当に狛江の母子を大切にしているのは何処なの?

2. 公民館(中央について)

航空計器跡地に700世代、移入とか、人々の大移動もあり、事業を見直してもっと効率をよくして、複合施設でもいい。おいておくわけにはいかないのか。地域の生涯学習の場又は老人会、町会等、地元と密着したところは委託は無理だし成功しないと思います。